

層富

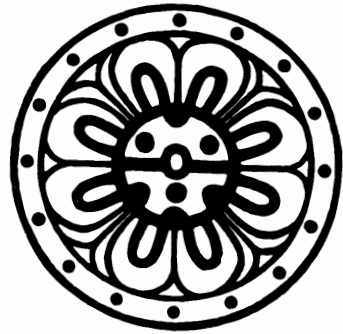
(川口勇書)

会誌名「層富」(そほ・そふ)の由来

私たちが住んでいる平城ニュータウンの地域は、古代には「層富」または「曾布」「添」とも記され、「倭六県」(やまとのりくのあがた)の一つでありました。出典は『日本書紀』の神武即位前紀己未年の春2月壬辰朔辛亥(20日)の条にみえる「層富県」によりました。

題字もはじめ小さく、あと大きくしましたのは皆様の将来と本会の末広の発展を願ったものです。

古代大和の由緒ある地名を理事会の賛同を得て会誌名としました。ご愛顧の程を。(網干善教)



会章

平城ニュータウンの「平」と文化協会の「文」を上下に組み合わせ、単純な円形にまとめ、音如々谷瓦窯跡から出土の古代軒丸瓦の中央部分に配置したものです。蓮華の中の埴輪の顔のようにも、二人三脚で楽しんで見えます。

(基本デザイン 笥 裕)

(構成デザイン 梶野 哲)

第二十九号【層富】目次

「表紙について」 清正の兜 (写真と文)	山田 玲子	1
「層富」と「会章」の説明	2
「目次」	3
「巻頭言」	4
「記念講演」 日本書紀と古事記	松村 如洋	3
「飛鳥学講座」	寺崎 保広	4
「平城ニュータウン文化協会」の発足までのお話	木下 正史	16
「俳句」	松岡 禮一	18
「短歌」	21
「川柳」	25
「グループからの便り」	34
「第二十九回 (平成二十三年) 文化祭」	38
「第三十回 (二〇二二年度) 総会報告」	60
「会則」	66
「講座・同好会 (二〇二二年度) 一覧表」	73
「編集後記」	75
「編集後記」	76

【巻頭言】

平城ニュータウン文化協会 会長 松村如洋

平城ニュータウン文化協会は、会員はじめ諸先輩・地域の方々に育まれ、今年創立三十周年を迎えました。皆様にご心より感謝申し上げます。現在、当文化協会では多くの素晴らしい講座・同好会が開催されており、会員の皆さんは自由に参加し、活発な文化活動を楽しんでおられます。

孔子は「知っているというのには好むものには及ばない。好むというのには楽しむものには及ばない。」と言っています。

子曰、「知之者不如好之者、好之者不如樂之者。」（論語 雍也）

つまり、最高の境地は「楽しむ」ことだと言う。知識を学び、職業につき、自ら仕事に心血を注ぐ中で、知識を生かし、仕事を成就させる。そうする事でこの上ない享樂と喜びを得る境地です。

私達は文化活動を通して、多くの知識を吸収し、学んだ知識を豊かな人生を送るために活用しています。それが楽しみでもあり、喜びでもあります。更に、志を同じくする仲間と心を通い合えるのも大きな喜びです。

これからも、一人でも多くの仲間と共に、平城ニュータウン文化協会の様々な文化活動に参加し、学び、楽しみたいと思います。



日本書紀と古事記

奈良大学文学部史学科 教授

寺崎 保 広

今年は今古事記が編纂されて千三百年にあたります。古事記と日本書紀は、現在残っている最も古い書物です。古事記と日本書紀の二つ合わせてタイトルにしました。両方比べると違いが出てくるのではないかと思います。

一、日本書紀はどういう書か

『国史大辞典』から引用したものをコピーしました。一部を抜粋し、読んで補足します。

* 「神代より持統天皇十一年（六九七）八月に至る歴史書。舍人親王ら撰。三十巻、系図一卷（現存せず）。養老四年（七二〇）五月二十一日完成、奏上」

舍人親王と言うのは、編纂代表者で天武天皇の子供に当たる皇族の一人です。その下で役人たちが沢山集まっています。まとめた物が日本書紀である。

* 「巻一・二は神代巻で、巻三神武天皇から巻三〇持統天皇に至る」

* 「本書の記事は巻三以降天皇が中心で、即位前紀に天皇の諱、父母、性格、立太子、先天皇の崩御を記し、即位の年を元年とし、記事は月日につけて、月日不明の時は是月・是歳とする。立後の記事には母と子女を列挙する」

これは、日本書紀の本文が、どのような内容で書かれているかの説明です。天皇の即位前紀というのは、即位した時にそこにまとめてその天皇のことを書く。例えば、持統天皇が即位した所に、持統天皇とはこうこうこういう名前の人で、父親は誰、母親は誰、こういう性格の天皇でした、皇太子になったのは何年何月でした、前の天皇が亡くなったらそれを受け継ぎ即位をしました、と言うように、即位するまでの流れをまず先に書く、その後、即位の年を元年として、記事は何年何月にどういうことがあったと日付け毎に書いていく。編年体といいます。天皇の奥さんを皇后に立てることを立后と言います、立後の記事には、ある天皇の全ての奥さんと子供をまとめて書きます。

* 「記事の範囲には特定の限定はなく、天皇の行動、政

策、天文、災異、瑞祥、外国關係などが記され、中国の皇帝実録とも異なる」

いろんな事柄が記事として収録されるが、天皇の行動、その時の政権が出した重要な政策のほかに、天文の状態、災いが有ったとか、めでたいしるしが出た、外交でどういう使節が来たとか、派遣したといった国家にとって重要なことをもれなく記すのを原則とした。先週、金環日食がありました。ああいうのは当然記事になる。それは、重要な天文上の異変だからです。

*「本文の漢字は『古事記』の漢文のような国語脈が入ったり、日本語を漢字音によって示したりすることなく、比較的純粋な漢文である」

日本書紀の漢文の方が、きちんとした漢文、純粋な漢文に近い。例として、日本書紀の推古天皇元年四月の条をあげておきました。有名な所だけ読んでみます。

*「四月の己卯、みまの厩戸豊聰耳の皇子を立てて、皇太子となす。よつて録して撰政とし、万機をもつてことごとくゆだね」

と、書いてある。厩戸豊聰耳の皇子とは聖徳太子の事です。この推古天皇元年というのは、西暦五九三年の時

で、日本で初めて女性の天皇である推古天皇が即位したために、有能な皇族である聖徳太子を皇太子にしたという記事になる。その皇太子である聖徳太子を撰政という立場に立たせ、万機をもつてことごとく委ね、すべての政治を彼に任せたと書いてある。

したがって、推古天皇の時代は、実際には聖徳太子が中心となって政治を行うんだという書き方になっていく。ここでは、聖徳太子が生まれながらにして優秀であったとか、母親が、厩の所を見回っていた時に産気づいたので厩戸という名前がついたとか、一遍に十人の訴えを聞いて、全部もらさず聞き取れたとか、いろんな聖徳太子の伝説が後に書いてありますが、こういうきちんとした普通の漢文体で書かれているのが特徴である。

*「最近本書の各部分の詳細な研究により各巻執筆は一人の手によるものではなく、複数の人物が参加していることが指摘されるようになった」

巻の一から巻の三〇まで、一人の人がまとめて書いたのではない、様々な人の手が入っていることが最近の研究でわかってきた。何故わかってきたかというと、記載事項の特徴とか、どういう文字を使うかとか、或いは、

注を付ける時に、どういう形で注をつけるかなど、様々な項目の各巻ごとの比較によって、グループ分けが出来るのだとわかってきた。それらの特徴は、内容の必然性によるのではなく、各巻の担当者の文章の癖によるものであって、執筆者がただ一人ならば生じないものである。日本書紀は複数の人が分担して執筆していたことがそれぞれの巻ごとの癖からわかってきた。

日本書紀は一般にこのように説明されている。以下少し補足します。

日本書紀というのは、日本で最初に出来た正史と言われます。政府の責任で、きちんとした後世に残すために作った歴史書のことを正史と言い、その最初が日本書紀、日本書紀の次が続日本紀。日本書紀が六九七年まで書いてあり、六九七年八月の段階から受け継いで、その次の歴史書が続日本紀、これが二番目の正史である。続日本紀は、六九七年からスタートして七九七年までを書き継ぐ。

続日本紀の次に日本後紀がある。合計六種類の正史が作られた。これを合わせて六国史という。何故か「りっこくし」と読ませる。六国史の最後は八八七年まで。こ

こまで断絶することなく重要な事柄は六国史のいずれかに書いてある。

これが古代史を研究する上で、最も基本となる資料である。

その中で一番古い所に当たる最初の資料が日本書紀である。六種類の正史の中では、日本書紀だけがやや特徴があり、少し違う。それは続日本紀から後は事実関係をあまり誇張することなく、淡々と書いていくという特徴に対して、日本書紀の方は、歴史時代だけを書けばよいだけでなく、それ以前も書かなければならない。つまり、日本という国がどういうふうに出上来上がったかを書くのが一つの大きな目的だから、そのために神話の話を当然書かなければならないはず。神様が居て、神武天皇になって高千穂に……という神話の話があつて、そこから天皇が神武天皇以降代々位を受け継いできて、現代に至るといふ国の成り立ち、奈良時代までの国家の動きをもれなく書かねばならないから、特に神話の時代から後の国の成り立ちの所、日本の成り立ちを正当化するために書かねばならない、そういう必然性があつた。そうすると、日本書紀全体を歴史の資料と考えると、日本書紀に

書いてある記事の信憑性がどの程度あるか、どれだけ事実を踏まえて書いてあるかを考えながら読まなければならぬ。

これは予測できる事ではあるが、古い時代の事はかなりお話がいっぱい入っていて、事実でない荒唐無稽なことを含めて、様々な事が書いてあるだろう。時代が下がるにしたがって、事実を踏まえた記述が増えてくるだろうと予測できる。

日本書紀も最後の方の六〇〇年代から後の方は、かなり事実に近い事を書いてある。奈良時代に出来た本だから、それから三十年前の事は、あんまり嘘はつけないわけだ。

日本書紀に書いてある信憑性の度合いは、研究者によつてまちまちであるが、おおざっぱに言えば、応神天皇とか仁徳天皇とか、五世紀の天皇、そのあたりから少し事実関係が入ってくるのではなからうか。

六世紀になると、欽明天皇あたりが、又少し信憑性が高まる。欽明天皇は仏教が伝来した頃です。

次に、七世紀初め、五九三年から聖徳太子が出てくるあたり、推古天皇あたりからは、かなり書いてある内

容は、信頼が置けるようになってくる。

その後、七世紀中頃、六四五年大化の改新、その後、六七二年、壬申の乱が起きて、天武天皇が即位した、持統天皇になりました、と言った所で終わる。天武天皇とか、持統天皇あたりの日本書紀は、相当信頼度が高い。

二、日本書紀の成立と帝紀・旧辞

*「本書編纂の材料となったと推測されるものには、早く推古天皇二八年（六二〇）に聖徳太子らが録した『天皇記』『国記』以下があり、天武天皇一〇年三月、川島皇子らに記定せしめた『帝紀』及び上古諸事』持統天皇五年八月、大三輪氏ら十八氏に奉らしめた『墓記』がある。和銅七年（七一四）二月十日、紀清人・三宅藤麻呂に国史を撰ばしめ、本書の編纂が始まっていたことを示している」

つまり、日本書紀が七二〇年にいきなり出来上がったわけではない。その前から様々な材料となる歴史編纂の作業があつて、それらを踏まえて最終的に七二〇年に完成したとの説明です。

資料がどのようになってくるかをあげた。

*「六二〇年推古二八年、この年皇太子と嶋の大臣と共に、議して天皇記、及び国記、臣連伴造国造百八十部井公民等の本記を録す」

この年に皇太子（聖徳太子）と、嶋の大臣は、朝廷で最も権力を持っていた。蘇我の馬子、明日香にある石舞台古墳はこの人の墓だろうといわれている。

推古天皇の時代には、聖徳太子と蘇我馬子が実際に協議しながら政治を進めていた。先ほどの所で、日本書紀では聖徳太子にすべての事柄を任せたと書いてあるが、どう見てもそういう評価はなく、聖徳太子と蘇我馬子の二頭体制で、政治を進めていた。

蘇我氏と聖徳太子は仲が悪くて、斑鳩の方に逃げて行ったという話があるが、全くそんな事はなく聖徳太子は、蘇我氏系の血筋が強く、母親、おばあちゃん、自分の息子にも蘇我氏から嫁を迎えているし、蘇我氏とは血筋の上で近い関係にある。

それだけでなく蘇我馬子とは、極めて良好な関係を保って政治を行っていた。話はそれだが、聖徳太子と蘇我馬子が、二人で議論しながら天皇記という書物、二つ目は国記、臣連……本記、この三つの記録を作らせた。内容

はわかりませんが、天皇記というのは天皇に関する記録、国記は国の政治に係わる記録ではないか。臣連ともものとつ……以下は臣下に関する記録、それを纏めようとしたと見られる。それが推古天皇二八年（六二〇）の事である。

次の資料は、大化改新のクーデターが起こった時である。大化改新のクーデターは、蘇我氏があまりに横暴で、皇室をないがしろにしていると、皇族の中大兄皇子、中臣鎌足（後の藤原鎌足）の二人が中心になり、蘇我氏を打倒しようとしたクーデターである。馬子の息子の蘇我蝦夷、更にその子蘇我入鹿が打倒された側になる。その時の事件で、

*「皇極四年（六四五）六月十三日、蘇我臣蝦夷ら誅せらるるに臨み、ことごとく天皇記、国記、珍宝を焼く」
ふねのかわりときさか
「船史恵尺と言う人が即ち走りて焼くところの国記をとりに中大兄皇子に奉獻す」

蘇我蝦夷がクーデターで襲われた時に、国の宝を全部焼こうとした。ところが、船史尺が飛び込んで、国記だけは救い出した。その国記を取り出して中大兄皇子に献上し、国記の一部が残ったらしい、というのがこの資料。

しばらくたって、天武天皇の時代に、天武天皇が歴史書を作れと命令したのが次の資料

*「天皇大極殿にお出ましになり……帝紀及び上古の諸事を記定せしむ」

天武天皇が大極殿にお出ましになり、川嶋皇子以下十人程集め、詔をした。内容は帝紀と上古の諸事と言うものを記し定めよ、との命令を下した。天武天皇が正史編纂の開始を命じた事を示す資料。

ここでの帝紀、上古諸事とは何かわからないが、天皇記、国記と本記はもともあつたらしい。名前からすると、帝紀は天皇に係わる記録、上古諸事は国記、本記に近いかなと思われる。

*「持統五年十八の氏に詔してその親などの墓記上申せしむ」

それぞれの氏が持っている祖先の記録、或いは墓の記録を天皇の所に差し出しなさい、と言う命令を下した。

これも日本書紀の材料として取り入れられた、それぞれの氏についての記録ではなからうかとされる。

簡単に纏めると、日本における国の歴史書作成の始まりとして見られる記事は、推古天皇の時に、聖徳太子、

蘇我馬子らが協力し、作り始めた記録が歴史の始まりと見られる。

大化改新の六四五年に、その一部が残つたらしい。何れにせよ、天皇記、国記の内容までは伝わっていない。日本書紀編纂の始まりと見られているのは、六八一年、天武天皇が天皇の記録、或いは古い時代の事柄を集めて編纂せよ、と命令されたことが、後の日本書紀の始まりと見られている。

ここでは、帝紀とか上古諸事を中心に、材料集めから始まって、編集作業が開始された。その後、中断を経て七一年、奈良時代になって、本格的に日本書紀を作ろうと機運が盛り上がって、平城遷都直後、国史として纏め、七二〇年に出来上がった。

以上が日本書紀の成り立ちである。

こうしてみると、歴史書を作るのは、国家意識の盛り上がりがある時にこそ作られる。日本書紀の次に続日本紀を作ろうというのは、日本書紀が対象とした時代から、もうすでに何十年経って、時代が変わってきたのだから、次の歴史を纏めようと歴史書の編纂が始まった。

続日本紀が出来たのは、桓武天皇の時代、桓武天皇と

言うのは、平城京から平安京へ都を移した天皇で、自分の時代に世の中が変わったと意識し、今までは、天武天皇の時代であったが、私はもう天武天皇と血筋が繋がっていない、私のおじいさんは、天智天皇である。天武天皇以来の血筋を引く天皇の平城京に居る必要がないと、平城京を出て、長岡京、そして平安京へと移った。

そういう時代には、歴史の区切りがあると判断する。そこで日本書紀の次の区切りとして、自分の時代までも含めて、続日本紀と言う次の歴史書を作ろうとした。

三、古事記の序文

古事記には序文があつて、有名な太安万侶が、こういう事情でこれを作ったか、きちんと書き残してくれている。その序文を読めば大体わかるので、その序文を現代語で載せた。

* 「古事記 上巻（序を合わせている）「臣安万侶が申し上げます」で始まる。「天地が初めて分かれると、三神が万物の始まりとなった。陰と陽とがここで分かれて、二柱の神がすべてのものの生みの親となった」

これが、いざなぎといざなみのことです。ここから、古

事記の神話の部分を述べている。

* こうして、はのにぎのみこと 番仁岐命が、初めて高千穂の峰に降つていらつしやつて、かむやまとすめらみこと 神武の天皇が、大和国に巡り至られた」

この段落で、話が神代の時代から天皇の時代に変わる。それ以前は、神代の話を簡単に纏めているところ。にぎのみことが、高千穂の峰に降つて、その子孫である神武天皇が大和の国に日向から移つてきた、と、ここから以降が天皇の代の話となります。

* あすかのきみはら 飛鳥清原の大宮で大八州をお治めになった天皇の御代に至つて、太子として天子たるべき徳を備え、好機に応じられた」

ここから後が、天皇の時代の中でも、歴史時代に極めて近い話。飛鳥清原の大宮で、大八州をお治めになった天皇とは天武天皇の事です。

天武天皇から後を、近い過去と考えている。天武天皇が、皇太子として徳を備えていた話しから始まって、壬申の乱の事を説明している。

* 「そして酉の年二月に清原の大宮で即位なさった」
六七三年、天武天皇として即位した。

* 「ここにおいて、天皇が仰せられたことには、私が聞

くところによると、諸家のもたらした帝紀と旧辞とは、既に真実と違い、偽りを多く加えているという。今この時に置いて、その誤りを改めないならば、幾年もたたないうちに、その本旨は滅びてしまうであろう。この帝紀と旧辞とは、すなわち国家組織の根本となるものであり、天皇の政治の基礎となるものである。それ故帝紀・旧辞を良く調べ正し、偽りを削り、真実を定めて撰録し、後世に伝えようと思つたと仰せられた」

ここに出てくる帝紀、旧辞とは、日本書紀の編纂のこの条文と同じ事ではないかと考えられる。

天武天皇十年（六八二）「天皇が大極殿にお出ましになつて、川嶋皇子以下十何名に対して、帝紀、及び上古諸事を記し定めしむ」帝紀は共通です。日本書紀では上古諸事となつてゐるのが、ここでは旧辞とこれに対応するのではなからうかと考えられる。

これが同じ事だとすると、天武天皇は帝紀と旧辞という形で歴史書を編纂せよと命じ、一方では川嶋皇子以下に、資料を集めて調整せよと言つてゐるし、もう一方は、個人的に稗田阿礼という人にも、今までの記録を暗記せよと命令した事になる。この関係は、研究者でいろんな

議論がある。

古事記の序文に戻ります。

*「時に舍人^{とねり}が居た。姓は稗田、名は阿礼と言ひ、歳は二十八であつた。人柄は聡明で、目に触れると口で読み伝え、耳に一度聞くと、心にとどめて忘れることはなかつた。そこで、阿礼に仰せられて、帝皇の日継と先代の旧辞とを誦^よみ習わせなされた。しかしながら、時世が移り変わつて、撰録はお果たしなざるにいたらなかつた」

完成せず。天武天皇の時代には歴史書として纏める事は出来なかつた。

時代が移つて、

*「謹んで思うに、今上陛下は……」

今上陛下というのは、元明天皇の事であり、元明天皇の時代にこうなつたという説明です。

*「ここにおいて、今上陛下は、旧辞の誤り違つてゐるのを惜しまれ、帝紀の誤り乱れてゐるのを正そうとして、和銅四年九月十八日に、臣安万侶に仰せられて、「稗田阿礼の誦^よむところの勅語の旧辞を、撰録して献上せよ」とおっしゃつたので、謹んで仰せのままに事細かに採録した」

ここで初めて、太安万侶が、天武天皇時代の古い言い伝えを記録せよとの命令が下ったので、私が始めましたと言っている。

*「おおむね記すところ、天地開闢かいてびくから始めて小治田おはりだの御代に至る」

小治田おはりだの御代とは推古天皇の時代までを対象としている。

*「天御中主神あめのなかつまのかみから日子波限建瓊草葺不合命ひこなぎさたけのかやまわすののみことまでを上巻とし、神倭伊波礼毘古天皇かむやまとい、われびこのすめらみこと（神武天皇）から、品陀ほむだ（応

神天皇）の御代までを中巻、大雀皇帝おおささぎのすめらみこと（仁徳天皇）から小治田おはりだの大宮（推古天皇）までを下巻とする。合わせて三巻とし記して、謹んで献上申し上げる」

ここに書いてあることから、おおそ古事記の成り立ち、内容がわかる。

この序文を踏まえ「古事記とはどういうものか」を補足していきます。

元になった材料、帝紀、旧辞というには、言葉の意味からして、日本書紀の材料としたものと共通するらしい。但し、日本書紀の方は舍人親王以下スタッフが定められ、国の歴史書として編纂した、との性格がはっきり出

ているが、古事記の方は、太安万侶個人に元明天皇が纏めなさいと言った事で、編纂の体制が随分違う。従って、古事記は国の正式な歴史書である正史に含めない。

内容は上中下に分かれ、それを見ると、古くは神代の時代からあって、推古天皇の時代で終わっている。持統天皇の時代まで含めたのとはちよつと違う。

中巻は神武天皇から応神天皇まで、下巻は仁徳天皇から後、推古天皇までという編成になっている。

日本書紀は、全三十巻で、神代の話は一、二巻だけ、以降は天皇の話になっている。これに対し、三分の一を神代の時代に充てている古事記の方が、神話の話、神様から天皇が生まれたという、国の成り立ちの方に重点を置いた巻の編成になっている。それが、巻の構成と内容の特徴。

日本書紀は「本文の漢文は古事記の漢文のような国語脈が入ったり、日本語を漢字音によって示したりすることなく、比較的純粋な漢文である」

日本書紀の方はちゃんとした漢文で書いてあって、古事記の方はやや日本崩れの漢文であり、文体が少し違う。和風の漢文、大和言葉を踏まえたような漢文で、文章、

文体が違う点が少しある。

材料についても、共通する部分がある。特に神話の部分で相当共通するだろうと言われる。

日本書紀の方が、非常に冷静な歴史書としての書き方、様々な説を紹介するという書き方で、書かれている。古事記は、異説については殆ど触れていない。全体を統一した神話としての一体性がわかるようにしてある感じがする。読んでいて古事記の方が分かり易い。日本書紀では、本筋の説話を書き、異説も多くある。内容的な違いがあるので、歴史書としてみれば、日本書紀の方が信頼度は高い。逆に神話として研究するのは古事記の方がストーリーも一貫しているので、取り扱いやすい。

四、太安万侶の苦心

これはどういう事かというところ「しかしながら、上古においては、言葉もその意味も共に飾り気がなく、どのように文字に書き表したらよいか困難なことがある。すべて訓を用いて記述すると、文字が言わんとする所に届かない場合があり、すべて音を用いて記述すると、長々しくて意味がとりにくい。そこで、今、或る場合は一つの

事柄を記すのに、すべて訓を用いて書く事にする」と書いてある。

これが太安万侶の苦心である。漢字を使って日本語をどうやって表記したら良いか、とても苦労したと書いてある。日本書紀は漢文で書いてあるから、そんな苦労はない。古事記は古代の大和言葉を使うために、音読みや訓読みで大変工夫し、苦労したと書いてある。この部分がか、古事記の用字法、漢字の使い方はどういふものだったのか、様々な国語学の方で研究されている。

簡単に結論だけを言いますと、古事記には分かり易い漢字を使い、一つ一つの漢字は違う読み方になっている。似たような意味の漢字は使い分けてある。古事記の研究は日本語の成り立ち、日本語表記の歴史という面で大変問題となる材料でもある。

五、二書を読み比べる

古事記と日本書紀の対応する部分を挙げてみる。共に雄略天皇、五世紀後半の頃の話。雄略天皇が吉野へ行った時の話。古事記というのは説話、お話としてきちんと統一の取れた書き方をしている。(神話的文体)日本書紀

はあくまで歴史書としてきちんと書くこととしている。(歴史的文体) 材料も良く似ているけれど、方針がかなり違う。

まとめ

日本書紀と古事記、共に現在残っている書物の中では最も古いとされるものです。

古事記、日本書紀の事を総称して記紀と言います。それぞれの違いを中心としてお話をしました。日本書紀、古事記は共に国の成り立ちを説き乍ら、現在までの歴史をたどろうとする点では、似ておりますけれども、目的、文体その他ずいぶん違う、日本書紀の方が、国の歴史書としての形態を整えるという事がありますので、日本の神話の部分は、それ程分量的に多くなくて、それより後の部分を、何年何月何日に天皇はどうしたという日にちにかけて、きちんと書くこととしている。場合によっては、異説があれば異説も紹介するという冷静な書き方をしていく。

それに対して、古事記の方はバランス的に神話の所に重きを置き、三分の一を抑えていて、日本という国がど

ういうふうに出来上がったのか、天皇家がどういうふうになり立ってきたのか、という事を説明する。そのために、日本書紀のような客観的なほかの資料の引用とかはせずに、神話として読んで分かり易い、一貫しているという方に重点を置いている。

これで、日本書紀と古事記という話を終わらせて頂きます。

平成二十四年五月二十七日

平城ニュータウン文化協会 講演会にて

寺崎保広先生の略歴

一九五五年山形県生まれ。

東北大学大学院修了。

奈良国立文化財研究所勤務を経て

二〇〇〇年から奈良大学に勤務

日本古代史が専門

著書

「長屋王」

「藤原京の形成」

など、多数。



飛鳥学講座

東京学芸大学名誉教授
「飛鳥を愛する会」会長

木下正史

昨年十月から開講しました。

飛鳥は「日本人の心ふるさと」といわれます。

飛鳥の穏やかな風土の中に佇むと、日本の歴史と文化の豊かな重なりを実感すると同時に、大宮人の息吹まで伝わってくるような満ち足りた思いに包まれるからでしょう。

無理ありません。今日の日本の社会や政治、制度、信仰、文化、新技術、芸術、文学、文字、食生活などさまざまな起源・原点が飛鳥にあったといっても言い過ぎではないからです。日本と日本の歴史の大きな出発点が飛鳥にあったのです。

「日本国」の国名を名のようになり、その君主を「天皇」と称するようになるのも飛鳥時代からです。今日の県郡村の原点である国郡（評）里制、そして戸籍制度、元号や時刻制度も飛鳥時代に始まっています。

仏教を受け入れ、国教として定着させていきます。

そのいつぼうで、伝統文化の代表である巨大な前方後円墳をつくることをやめ、古墳文化を急速に衰退、変質させていきます。

そして仏教文化などが大きな幹となって飛鳥文化・白鳳文化を開花させていきます。

幸いにも、私たちは飛鳥大仏や飛鳥の石造物、薬師寺三重塔や薬師如来像、高松塚、キトラ古墳の壁画、万葉歌などなど世界に誇る多くの作品をこの目で見る事ができますし、味わう事ができるのです。

中国・朝鮮半島の諸国との外交・交流が活発化した時代でもありました。その過程で、多くの制度・宮都制度・仏教や道教思想・文物・知識・技術を受け入れていきます。飛鳥時代は、明治維新にも例えられる「文明開化」の時代であったのです。本当の意味で中国を中心とする東アジアの文明国家の仲間入りをしたのが飛鳥時代です。

飛鳥史を語る史料には「日本書紀」や「古事記」などがあります。しかし、その記述は簡略にすぎ、天皇の宮殿の場所ですらわからないものが多く、記紀から飛鳥と飛鳥史の実像を探るのは困難です。

飛鳥の地下には、その歴史の舞台となったさまざまな性格・役割を担った遺跡が良好な状態で残っています。発掘がその実像を蘇らせています。

飛鳥の本格的な発掘は早くも昭和八年の石舞台古墳から始まります。昭和四十五年からは、それこそ一日も休むことなく、飛鳥のどこかで発掘が続けられています。以来四十年余り、教科書を塗り替えるような大きな発掘が相次いでいることは、報道などを通じてご存知でしょう。まさに発掘の時代が到来したのです。

とはいえ、飛鳥に広がる広大な遺跡からすれば、まだ十パーセントほどの範囲しか発掘のメスが加えられていません。飛鳥はまさに古代史の無尽蔵の宝庫なのです。明日、何が発見されるか、わくわくするような期待が秘められている。それが飛鳥の大きな魅力です。

発掘では、七世紀中頃から末頃にかけての木簡が、すでに二万点近く発見されています。記紀の記述ではほとんどわからない税制や行政の仕方を具体的に物語る木簡が続々と発見されているのです。木簡の発見によって、飛鳥史は格段に充実してきています。万葉歌木簡もあり、朗詠された様子や文字文化の実態が蘇っています。

飛鳥学講座では、新しい発掘成果を取り入れつつ、考古学と文字史学の成果を総合しつつ、宮殿・寺院・古墳・庭園・技術・文化芸術など飛鳥史のすべてを皆さんとともに学んでいきたいと思っています。

なお、講座では、詳細な資料を配布し、また、スライドの映像を使って生々しく伝えていきたいと思っています。

現地での見学講座も行いたいと考えています。



スライドを使っでの受講風景

「平城ニュータウン文化協会」の

発足までのお話

松岡禮一

それは、昭和五十六年の二月の事です。

それは、右京四・五丁目地区自治会の班長会での話です。

新しく出発する事になる我々に、前年度の役員さんから、四月になるまでに、「新年度の役員全員を選出しておくように」との指示がありましたので、各組の班長は平城院さんに集まって、前年度の役員さんの司会にて役員を選出を始めました。

集まった班長の中に永田喜一郎さんと言う人がおられて、現在、自治会の会長をしておられるという事でした。

いよいよ話し合いが始まり、「会長職」を決める時になり、皆は、永田さんに、「我々は、素人の集まりだから、何もかもよくご存知の永田さん。どうか、引き続きで会長になって下さい」と懇願致しましたが、永田さんは、「二年も続けて会長になるのはイヤだ」とおっしゃって、引

き受けてくれませんでした。我々は幾度も幾度もお願いしましたが、どうしても「うん」とは言ってくれませんでした。その時です。——誰の発言であったか、忘れましたが——「永田さん。どうか、永田さんのお好きのようにやってください。我々は、永田さんの指示通りに動きますから、何とか会長をお願いします」と、無理矢理にお願いしてくれました。しばらくの間、ジッと考えておられました永田さんは、やっと引き受けて下さる事になり、我々はホッとしたのを覚えています。

四月になり、自治会の活動が開始しました。

自治会の役員会があった時、永田さんは、時々「この地区に文化協会がないのはおかしい。何とかして文化協会が欲しい」と言うような事をおっしゃっておられました。或る日、永田さんは「この地区に文化協会と言うものを作ろうと言う話が、いよいよ現実的な話になってきた。しかし、もし出来たとしても、私は自治会の会長の職を無理矢理にさせられたのだから、出来るであろう文化協会の会長を引き受ける事は、絶対しない。今言う文化協会の会長は、松岡さん、アンタ、なってくれ。今度はア

「シタの番だ」と、急に、私の方を見据えて強く指名されました。私は驚きました。私は、「そんな柄ではありません。文化協会の会長になるような器ではありません」と、断り続けましたが、どうしても駄目でした。私は、困って「この話は、しばらくおあずけ」と言う事にしてもらいました。

そうして、幾日か過ぎた或る日、連合会長をしておられる梶野さんと言う方が私の家に来られて、

「当地区には、全国から文化風俗習慣の異なる方々が転居されているから、お互いの親睦を深めていかねばならない。そこで、先ず、スポーツ協会を創設し、千五百人程の方々に参加して貰いました。万年青年クラブや社会福祉協議会や教育懇談会など設立されたが、何よりも文化協会の設立が求められています。松岡さん。会長になって下さいませんか」

と、言うような意味の話をされました。私は、驚きました。全く知らないお方が私の家に来られて、これから出発すると言う「文化協会」の会長を依頼されるとは、本当に驚きました。私は、「とても、とても、そんな柄ではございません。そんな器ではありません」と

謝る気持ちでお断りするばかりでした。梶野さんは、なかなか聞いてくれませんでした。その日は、何とか帰ってもらいました。

丁度その頃の事だった、と思います。

偶然にも——— 本当に偶然にも、ある会合で、宇陀中学校（現、宇陀高校）で、私と同じく教鞭を執っていたI先生にお会いしたのです。久しぶりの事で、懐かしくもあり、色々話を交わし、旧情を温めていて、話しは、今、私が困惑している文化協会の会長職の話をしました。しばらく黙っていたI先生は「丁度、いい話がある。アンタ、高松塚古墳発見の話を知っているでしょう。その、高松塚古墳を発見したと言う網干さんを私は畝傍中学で教えたように思う。今、確か、アンタが住んでいる平城ニュータウンの方へ転居した、と言う事をチョット耳にしたよ。

紹介しよう。彼は、大学卒業後、考古学、歴史学に貢献し、日本考古学会の会長になった、と言うから、キツトいい仕事をしてくれるに違いないよ」

と、言って名刺に紹介の言葉を書いてくれました。私は

嬉しくてたまりませんでした。

私は、その、網干善教と言うお方に、お目にかかり、今度出発する文化協会の会長職を、ぜひお願いしよう、と考えました。

そうして、この話を自治会会長の永田さんに話しましたら、永田さんは、「それはいい話だ」と言う事になり、右京四・五丁目の地区自治会役員全員と神功地区の役員をしておられた大橋さんや梶野さんと一緒に、網干善教と言う関西大学の教授のお宅に参上して、文化協会の会長職をお願いすることになりました。

網干先生のお宅にお邪魔して、「文化協会」設立の趣旨を説明し、その会長になつて頂きたい旨を懇願しました。ジッと聞いておられた先生は、しばらくして、快諾して下さいました。とても、嬉しくて、帰路、皆と幾度も幾度も喜びを語り合いました。

このようにして、「平城ニュータウン文化協会」と言う大きな船が、ともしな纜を解いて、大海原に輝かしく船出をしましたのが、昭和五十八年二月の二十八日の事です。

【付け加え】

副会長には、滋賀県立図書館で、数百人もの参加と言う「本を読むお母さん大会」を開催し、全国的評価を受け、大学にて図書館学講座までされた大橋一二さん、大学にて中国語を教えておられる下條新太郎さん、そして、平城西中学校の校長の幸田有禅さんのお三人、事務局長には、右京四・五丁目自治会の会長でもあり、住宅公団奈良営業所初代所長の、永田喜一郎さん、そして、会計には、通産省と首相から表彰を受けた美容会社の、林昭博さんと言うスタッフで出発しました。（私は次の年に副会長になりました）

尚、もう一つ付け加えますと、会誌の「層富」と言う名称は、網干会長さんの発案と言う事です。

「層富」の字は、書家の川口勇さんの揮毫、会章の図案は、寛裕さんのデザインを梶野哲さんが図案化した、と言う事です。（印刷は、奈良少年刑務所）

【俳句】

五寸釘

牧野 和代

蓆戸を巻き上げ小屋に初音きく

畦塗に真直ぐな雨の降りだせり

風鳴つて追儼の庭に繩をはる

恋猫の墓の水舐め鳴きとほる

お彼岸の羽のちらばる裏戸の辺

天道虫あ生れて風雨の草の中

春嵐流れて右往左往の下駄

牛鳴いてばらばら寒の雨こぼす

春大根木戸を閉ざすに五寸釘

手の平で春雪掃ふ子規の墓碑

玩具

岩田 禎彦

春の雨叩けば動く玩具かな
懸煙草足裏に土間の凸と凹
秋の空見上げ始まる無言劇
蔓ひけば零余子降るなり銅の山
上州の山の尖りや葱太し

月

上田 善次

松に月大根の影が木の股に
湯気立てて鉄瓶チンと唄ひけり
秋淋し位牌になじる寡婦やもめかな
藁屋根に重たき春の月出でぬ
運動会爺婆走る席取りに

春の雪

大橋 春代

朝どりの苺よる手に春の雪
凧に負けじと向ひ胸をはる
手のひらをぐつしより濡らし梨をむく
野仏のまはりに彼岸花さかり
幼子の笑ふ声する紅むくげ

春を待つ

岡田 安弘

枝に結ふ吉のみくじや春を待つ
待つ季ときへ歩みの遅き二月かな
大寒の朝の薬缶のちんちんと
尼寺に恋に破れし猫籠る
薬草を煮る香厨に春浅し

春よこい

立石 和恵

「春よこい」父の歩けるところまで

淑気満つ神杉の根の高あがり

夏潮の沖くつきりと飛行船

世界一ほまれのトロフィー初景色

旅なれてゆるく結びし縮帯

注連縄

平石 勝史

注連縄の些と揺れ戸口開きけり

壺焼の醤油煮詰まる匂ひかな

颯爽と乙女門出づ釣葱つりしおぶ

白壁に松の影射す良夜かな

水仙の高さ丁度や犬の鼻

花茗荷

西田 たまみ

春光を壁に塗りこむ左官かな

Tシャツの今日の暑さを洗ひけり

絵手紙のはみ出しさうな花茗荷

ギョラリーの静かに混みて山眠る

日陰ればすぐに寒さの戻りけり

光りて

福井 佐知子

たつぷりとみどりの絵の具夏はじめ

文字のなき絵本をひらく聖夜かな

庭石の窪みの水の澄みにけり

真ん中を川流れるる春田かな

草芳し風光りてはひかりては

絵手紙

福島 勢子

松島の孫を訪ねし秋刀魚寿司

切り干しを煮て思ひ出す母の味

冬田道貸農園の出入口

波音の東の空の初明り

絵手紙に一句をそへて春浅し

草の絮

由上 由美

夕焼けの色に染まりて草の絮

焼き畑の煙に惑ふ冬の蝶

初詣靴の音まで新しき

寒椿こんと音して花の散る

寒雀土這ふ足の細かりき

秋日入る

三甲野 美栄子

旅靴干せば隅まで秋日入る

土壁の崩る旧家の冬紅葉

石段の高さまちまち木の実降る

出産の予定日赤丸初暦

あかんぼの百面相や春そこに



【短歌】

生駒嶺

櫛原 聰

来ぬ夏を東大寺なる大伽藍佛とともに汗して待つか

朝光^{かけ}を撒き散らしつつ来る夏を佛とともに立ちて待ちたり

夏の樹に寄りて憩へりわが未来思へりしばし翳らひながら

生駒嶺の夕日身に沁む生駒辺に棲むわれら万葉のことばのひびき

任運騰々生駒嶺とともにありなむかひばりの声を聴くほがひびと

霧湧ける生駒山辺に帰らむかわが声青葉の底ひにひびけ

万の言葉とともにありなむ大和島生駒の山の霞みてをれば

夜隠^{ごも}りに出で来る月を生駒嶺とともに迎へむわがかたはらに

滝坂の道ゆけば水こだませりわが立ちつくす蜻蛉の滝

欧風の潇洒なる家もふりゆきて古代の恋に近くなりたり

老の日々

石井光子

「あぶない」と幼のあとを追ひし吾今はその子に手をとられ
脱け殻を木の葉に残しいつせいに夏謳歌する蟬の喧噪
生垣の手入れ至らず半ば枯るも枝を揺すれば青葉のこれる
覚ゆるより忘るる事の多くなる老の宿命悲しも認む
敬老の日「老春の家」は賑やかに愛染かつらの上映もあり

追憶

岩井幸子

虫の声寝返り打ちて聞く夜はいくつもの秋浮かびては消ゆ
水遊びする孫見つつふるさとの海思ふなり波の音する
坂道に杖をつく人亡父に似てうしろ姿をしはし見送る
毎朝に母を訪ふ道出会ふ犬ワンとひと声挨拶されし
鳥の声澄みたる空に聞こえくるほかに音なし雨やみでのち

親が小さくなりぬ

岡 典子

大島の姑ははのコートがこの冬はすこし丈が長くなったよ
玄関に毎年あった父の菊今年は小さきピオラにかわる
里帰りがらんとした家やに母一人祖母に似てきて小さくなりぬ
納戸には次の世代にたくされた姑ははの着物がかしこまっており
行き慣れた二人で入る温泉にずっとずっとと姑ははの背流す

春近き

岡 田 越 子

寒の頃大和文華館の庭めぐり芽を吹く樹々に春近きを知る
初釜に茶室の炉より湯気の立つ前に並びてカメラに納まる
総会の料理の名前は「春爛漫」色とりどりのうまか味にて
空青くロープウェイより見る神戸ビルと海とが緑に映えて
布引のハーブ園にてとりどりの花よりただよふ香りにむせる

一年がすぎて

小山 マサ子

知らぬ間にあちこち咲きて沈丁花凍れる狭庭も春近づけり
老ゆるとも雛を出す日は華やぎて幼なに戻り謠口ずさむ
遠く住む女孫をおもい雛あられ荷の片隅にそつと入れやる
梅雨晴れて久々空に深呼吸吸ネツクのビーズ陽に輝きて
食卓の向きを変えて夏に入るカーテン越しの風のさわやか

ライラックの花

川端 和加子

いさぎよく舞い散る桜仰ぎつつ儂いのち行く春惜しむ
待ち侘びて退院できた我が庭にローズピンクのライラックの映ゆ
ながい日々膝痛みてしるさままな仲間の苦難人生をみる
憂きことの多きを託つ明け暮れは「みすずの詩集」に心癒さる
人はなぜ思い出辿るか問い乍ら眠れぬ夜は遠き日の旅

雨のち晴れ

玉置小代

彦星が川わたる櫂の滴とか七夕の雨に街が濡れくる
道をたたき降りしきる雨の冷たさよ濡れそぼつ身にも心にも沁む
雲間より湖に降りくる陽光を「天使の梯子」と君が指さす
教会のウエディングの鐘鳴りひびき岬の果ての海境に消ゆ
川霧に煙る溪間に一本の公孫樹は黄金の光はなてり

幸 せ

鍋嶋美春

子の家にTシャツ大小はためきて弥生の風に戯るがごと
ぢぢの家ひとしきり巡り幼らは凱旋せしごと居間に戻り来
幼子は亡き犬辿りし道を行く草叢のなか電柱の影
五條市より五百家東佐美蛇穴経て忍海を通り奈良山陵町
コスモスにシベリア朝顔紅蜀葵女郎花まで庭は華やぐ

五月に向かふ

西本直江

初めての恋の話も桜葉も映して少女の朝の手鏡
前向きに並べしサンダル当然と履いて娘は五月に向かふ
近隣の言痛き家をとびこえて屋根にあくびす猫の休日
雪の朝少女の耳をガードせし毛糸の猫が笑ひて過ぎぬ
相づちを馬酔木に落つる雨音にあづけて囲む義母との昼餉

くちびるにふと：

野村道子

山小屋に湯気のぼりたるなめこ汁ザックおろして白き息はく
たえまなくただしんと降りつもる静かに静かに村をつつみて
あじさいの冬芽のそばの水仙の白き花みて背すじをのばす
息とめて指揮棒おりの瞬間ときを待つピアニシモにて始まりし曲
くちびるにふと浮かびたる短歌うたありてくり返しつつ家路を急ぐ

あらたまの

平石勝史

あらたまの年明くる奈良の御空なる大極殿の鴟尾の際立つ
園児らの細工の手より不揃いの紙と粘土の雛あな生れにけり
競り合いの卓球台に汗は落ち若き選手の顔の美し
金色こんじきの佛を拜し帰る道また秋蝶が吾の先ゆく
がたがたと下ろし金鳴る大根だいこ擦り暇に手伝ふ夕餉の支度

異国の香り

松村 せつ子

遠き日の夫の任地の長崎へ行き交う人びと何故か懐かし
春浅きグラバー園に佇めば街も港も異国の香り
再びに訪うことはもう無きかなと名所を歩き食を愉しむ
愛らしい桃カステラは弥生だけショーケースの中春の華やぎ
九年の想い出胸に長崎から奈良へ帰りて二十数年

初孫

松村容子

若きらが要となりて集う宴新たうからと食みつつ和む
十六夜の月のぼりいる英国にわが初孫の産声高らか
初孫はほのかに口元緩みたり笑みに見とれて時間の止まる
初孫は我が家に訪い来て花柄の小さき布団一組増えたり
五か月の孫の瞳にわが面が小さく映りて繋がるを思う

思ひ出の糸

宮本郁江

灰を撒く如くに母は種を蒔く 一面に咲く米寿のなでしこ
思ひでの糸編み込みし座布団は米寿の母の夜々の手仕事
種蒔きてくれし友あり入院の母の畑に豌豆芽吹く
亡き母の最後の旅は岡山―奈良 九十の夏の青春切符
枕辺に図書館の本遺りをり 母の最後を支へてくれしか

なら燈花会

森 田 陽 子

大和路の春浅き城梅紅く光集めて宙に伸びゆく
振り向かず今を生きむと三笠山を見る朝光のなか桜花散り止まず
春の野に威容をほこる大極殿桜吹雪の舞いて華やぐ
生かされし生命思いて見る夜空なら燈花会の今宵灯れる
内山の永久寺跡訪い來たり桜吹雪の静けさにいる

木漏れ日

安 田 和 子

黄金からやがて緋となる夕映えにアンコールワットも衣替へせり
ジャングルの連はせる源流に梳る女木漏れ日あびて
「忘れたわ源氏も万葉も」ワット守る人に欲なき心地よさあり
みしらぬ児なおもひてか「バイバイ」と云ひつつ繋げる手のやわらかき
湖の波は語らず満開の今日を限りのさくらを愛でる

【川柳】

松田俊彦

おもしろそうだから匙に乗ってみる

父を降り夫を降りてゆく水辺

さっきまで母の座っていた布団

そのかわり金魚一匹買ってきた

もうひとつ病名もらうキリギリス

石森 義人

北よりも我国原登どうするの
耳鳴りも蝉と思えばまた楽し
多くなる一人住まいの独り言
忘れもの門を出てから思い出し
冬山は命を家に置いて行け

今吉 利子

肩よせてほたる狩りした彼は何処
眠ってるタンスの中の訪問着
魂のふわり漂う先はどこ
呼ばれてもいくんじやないよ彼岸花
大寒のあの世に炬燵おくれぬか

上田 善次

散る桜蝶と重なり飛んでゆき
露と消え桜と散った子の写真
茄子の馬お盆の海を泳いでる
水道管鼻を垂らして寒いです
国憂い維新の門を叩く人

川端 和加子

春爛漫桜の下で夢を追う
美しい桜花ひらひら風になり
いつまでも背筋伸ばして歩みたい
月一度「かたつむりの会」最終日
人柄は話さなくてもにじみ出る

島川 恵美子

温かい言葉に溶けた悩みごと
食事会薬の水が今日のしめ
訪う人は問う人ばかり角の店
立ち話許してくれぬ寒気団
磨かれてストーブ主役に返り咲き

高須 敏子

飲み会のボトルワインに気が残る
バイク音夕利きたと走り出る
ドラマ見てほろほろ泣ける照れ笑い
言いたいのがぐっと飲みこむ腹の虫
歯科治療あの音聞いて高血圧

竹本 俊平

寒い日に赤子抱けば生き懐炉

不意の客嬉しい時と邪魔なとき

花マルのノートを抱え孫が来る

惚け茄子におたんこ茄子が喧嘩売る

焼けぼっくい胸にひとつの同窓会

堀口 千秋

目が合つて門番あくびかみころす

訪ねると愚痴ばかりを聴かされる

そんなはずはないあなたの閉め忘れ

お相手がまだ見つかからぬか秋ほたる

お布団の温みに負ける寒の朝

玉置 小代

海に向き子の名呼んでる老夫婦

寒いギャグ笑つて見せて仲直り

閉め出して直ぐ後を追う母だから

空気読み口を噤んだ人もいる

夜明け待ち雪みち開けてくれた母

松村 如洋

焼き茄子に添えるしょうがは妻の味

うたたねにふわりかぶさる掛けふとん

呼ぶ声でわかるその日の機嫌良さ

むかし地図いま訪う先はカーナビで

税ぜいと国会論議に寒けする

松村 せつ子

たんぽぽの綿毛おまえも親ばなれ

農水路美しくなり螢消え

ふうと息吐けば怪獸寒い朝

母を訪うこともなくなり春巡る

天平の門華やかに桜さく

渡邊 千津

凍てる夜鯰大根に母の味

訪れる人も無きまま寝正月

ふわり浮き拍手喝采摩訶不思議

野火の如くうわさ広がり大やけど

ほろほろと散る花あって友は逝く

山田 恭正

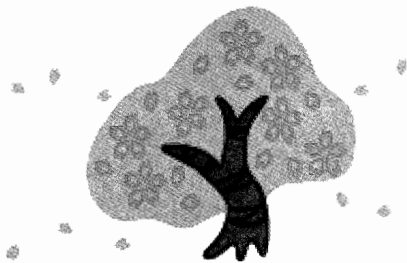
老老がシルバートシート譲り合い

嫁強し盛者必衰姑負け

女房に代表質問させたいな

日本人同士の相撲たまにある

祝日を連休にするあほらしさ



グループからの便り

飛鳥学講座

吉田 治正

日本文化財科学会会長、東京学芸大学名誉教授木下正史先生の飛鳥学講座が、平成二三年十月から北部会館三階において開講し、毎月一回で原則第一水曜日午前に講義して頂いております。

講義は、先ず「飛鳥初期の宮殿―豊浦宮と小墾田宮」を五回にわたって教わり、本年四月からは「考古学で探る聖徳太子―法隆寺・斑鳩宮・太子墓」を教わっています。今後逐次新項目を加えて講義が進んでいきます。

老齢の私が新講座は受講しないつもりでいたところ、堀口さんから「木下先生の飛鳥学講座は素晴らしい内容になる。是非参加を。」と勧められ初回から受講してみました。出席してみると先生作成のレジュメと図面がテキストとして配布された上、講義は発掘状態のスライド映写を加えつつ、発掘結果と文献根拠を関係づけるなどし

て、詳しく教えてくださるのでとても勉強になり、一度で素晴らしい講座を受講できたと感じ入り、毎回楽しみにして出席しています。

飛鳥は或る程度歩いて見たつもりですが、その歴史理解は漠然かつ点々に過ぎない私には、磐余の地から豊浦・小墾田、また磐余から斑鳩と、時代の流れ、各宮の所在特定、規模、配置など発掘結果を図示、映写し詳しく説明して下さるので、時代、場所、規模などが相当程度明確に、そして関係的に理解できた思いを得て喜んでおります。

本講座は現在受講生が三五名くらいですが、お忙しい先生が本講座のため日時を割り、テキスト作成の上早めにご出席になりスライド映写の準備をなさり、文化協会松村会長、講座世話役玉置小代さん始めお世話をして下さる方々が教室準備をされ、私など据え膳に座って受講しているようであり恐縮し感謝申し上げます。

古文書を読む会

武腰小百合

二年前、職場の上司に誘われ、文化協会の文化祭に行った時、「古文書を読む会」を初めて知りました。展示されていた資料を見ると、引き込まれました。学生の頃に古文を勉強していたこともあり、私もこの会に入つて勉強したいと思いました。

見学に行つてみると、社会人になって十数年の私から見ても、キャリアのある年配の方が多くおられたので、少し不安に思いましたが、先生の「気軽にいらっしやい」という温かい一言で「古文書を読む会」に入る決心をしました。

会の皆さんが、スラスラ読まれている中で、私は皆さんのペースについていけず悩んでいましたが、判らない所を一つ一つ優しく教えていただき、少しずつ読めるようになってきました。年代の違う方とお話しさせていただいて、充実した時間を過ごしています。完全に読める方でも、さらなる勉強を重ねておられ、同じ場に居て自分も何歳になつても、熱意をもって取り組める人になり

たいと思いました。

先生は、私が気後れしないように、いつも声をかけてくださいます。基礎をしつかりと教えてくださり、丁寧に説明してくださいます。時折、皆を和ませるために、笑いを誘うようなこともおっしゃり、教室は明るく楽しい雰囲気になっています。

この会に入つたことで、世代を超えてお付き合いさしていただき、自分の人生の財産がひとつ増えた気がします。

古文書を勉強していると、旅行先や登山の時に見つけた石碑の前で立ち止まり、意味を考える機会ができ、楽しさ倍増です。

これからも、皆さんと一緒に勉強し、力をつけていきたいと思えます。すぐに追いつくことは出来ませんが、一歩一歩努力していこうと思つています。



英語講座

田中 学

この英語講座を知ったのは、昨年の一、二、こちらの地区に引越して来て間もなくでした。家のポストに入っていた文化協会の案内を目にした妻が、「気軽に行けそうな英語講座があるよ。」と教えてくれたのです。もともと英語は何年か前から習いたいと思っていました。海外旅行が好きで、最近では個人で出かけた日もするのですが、行くたびに自分の英会話力の無さを痛感させられていたからでした。

ホテルのレストランで、「フォークを貸してください。」と言ったら、「ポーク？」と聞き返されたこともありまして、「V」と「B」の発音もよく聞き間違えられます。また、聴き取りはさらに苦手で、カフェでランチを注文するとき、「デザート」と「リゾット」を聴き間違えて恥ずかしい思いをしたことがあります。というわけで、こんな状況を打開しようと、すぐに当英語講座の門を叩くことにいたしました。

講座は、初級と中級の二部構成になっています。初級

は中学校の教科書を使って、読み、発音、聴き取りと全て基本から行います。中級は、カセットを使って聴き取り中心に行います。どちらか一方だけの出席でも大丈夫です。ので、スケジュールにあわせて受講でき、とても助かっています。また、初級と中級の合間に皆で英語の歌を歌います。十一月の文化祭での発表に向けてですが、これがとても良い気分転換になります。

当英語講座は、右京ふれあい会館で開催しています。

「英語の勉強を始めたけれど、カルチャーセンターのような教室に通うのはちょっと……。」としり込みされている方。一度この英語講座を覗いてみてください。自分のレベルとペースで楽しみながら学んでゆけます。

最後に、ご多忙の身にもかかわらず、毎週講座を開いてくださる先生に、感謝申し上げます。いつも有難うございます。



折り紙を楽しむ会 山形 幸枝

もう三年になるでしょうか。友達に「折り紙をやってみないか」と誘われたのは。

毎月一回、火曜日の午前中、右京ふれあい会館で山田先生を初め十数人の皆さんで楽しんでおられる「折り紙を楽しむ会」というグループに参加させて頂きました。毎回先生の発案で、その月に合った折り紙を教えてくださいます。

一枚の紙を工夫して折り見事な作品に仕上げていきます。沢山の色紙と一緒に和紙もあり、その手触りや色の配合など、まだまだ先は奥深いものがあるように思います。

昨年教えて頂いた連鶴は、一枚の紙をほんの少し切り残し、三羽の鶴が一点で連なりあって見事に飛んでいるように見えるのです。出来上がったときは、とても感激しました。

今年は、昨年から引き続き出来上がっていないおひな様や五人官女など、これらを是非完成させたいと思って

います。

先生の温かい心遣いや、先輩の皆さんの人生の歩み方、あり方など、含蓄の深いお話を聞かせて頂きながら時間が過ぎていきます。

折り紙に興味のある方、一度ご見学にお出でください。



押し花を楽しむ会

伊藤 京子

もともと花が好きだったので、庭で花を育てていました。丹精込めて育てた花も、寿命が来て枯れてしまいました。もう少し長く楽しみたいと思っていたところ、文化協会の押し花教室の存在を知り、入会させて頂いて、早いもので十数年がたちました。

その間、講師の先生も、私の母親の年齢にも近い広崎先生から、とつても若くてパワフルな高橋先生へと変わり五年目となりました。

押し花の技術は、なかなか上達しませんが、教室で知り合った仲間に会えることが楽しみで、続けることが出来ました。

昨年は、先生のアドバイスを頂きながら、姪の結婚披露宴の席に飾られていた花を使って「バラにリボンをあしらった額」を、また、姉の新築祝いに「ガーベラをアレンジしたキャスケードブーケの額」を作り贈ったところ大変喜んでくれました。

今は野草に惹かれています。散歩しながら見つけた名

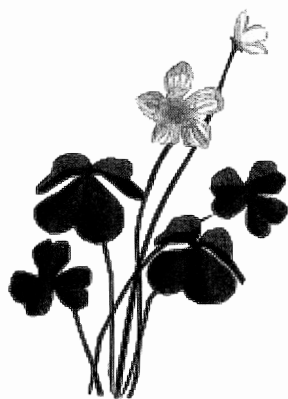
もない花が、作品の中では生きてくる。花を押す過程は大変ですが、完成した時の喜びはひとしおです。

これからも、肩肘張らずに押し花と長く付き合っていけたらと思っています。

絵を描くことは苦手な方も、押し花の力を借りればどなたでも描けると思います。

月一回、第四水曜日に、右京ふれあい会館で行っています。

今年、新しい仲間も加入され喜んでいきます。皆様も気軽に押し花始めませんか。



丹田呼吸健康法

鍋嶋 美春

呼吸が人間の心身の健康に良いらしいと思い、何冊か本を買って読んでみましたが、それだけでは判りにくく一日、二日で止めてしまいました。平城ニュータウン文化協会に丹田呼吸健康法ができたのは、平成二十二年九月ですが、日程の都合で私は、二十三年十一月の第一金曜日から入れて頂きました。

先生は、まさに丹田呼吸法の専門家で大変熱心にご指導くださいます。先生の号令に合わせて指示通りに身体を動かします。先生のお声は、大きくはないのですが、力があり、お声を聴くと自然に背筋が伸びて生徒の方も真剣に取り組みます。

こうした実技は、本を頼りに一人でするのは無理だと思いつながら、いい機会に恵まれたことを喜んでおります。先生は、新しい参加者が見えると、その都度分かりやすく教えてくださるので、新しい方にも私達にも有難いことです。

更に、献身的にお世話してくださる方々があり、休憩

時間にはお茶、お菓子など用意してくださることもあります。和やかな雰囲気でおしゃべりと共に楽しいひとときです。

平城西公民館は不便かなとも思いましたが、高の原駅からバスがすぐ傍まで来ていますし、少し歩けば学園前から出ているようです。

興味をお持ちの方、これからの人生をお互いにより健康で楽しく過ごせるように、ご参加をお待ちしております。

場所 平城西公民館

日時 第一金曜日 第三日曜日

午後一時半から三時半

公民館その他の事情で日程など変更になることがあります。その都度、平城ニュータウン文化協会NEWSに出ます。

短歌を楽しむ会

小山マサ子

短歌を楽しむ会に入会させて頂き丁度一年が過ぎました。なかなか上達できず満足に至ったことはありませんが、自分流に素直に作詠出来ればと、毎回楽しく出席させて頂いております。

また、平成二十四年一月から高名な歌人であられる櫛原 聰先生のご指導をいただけるようになり、なお一層励みたく勉強させて頂くつもりです。

「三十一文字」に心を寄せることで楽しみも増し、日頃の生活にも潤いが湧き、一心に短歌作詠を充実させたいと願うばかりです。親切なお仲間達にも恵まれ、自分なりに挑戦いたします。

この「短歌を楽しむ会」も二百四十回になります。櫛原先生をお迎えしてから素養豊かな新しい会員も次第に増え賑やかになりました。月一回の歌会は緊張感の中にとやかな雰囲気です。どうぞ毎月第二火曜日の午後北部会館の部屋を覗いてください。



2012.04.10

櫛原先生をお迎えして若い歌友も増えました

ゆっくり歩きこう会

藤澤 陽子

笑顔とおしゃべりを道連れに歩いています。

自然を満喫しながらの散策です。

◆平成二十三年四月三日 「秋篠川畔を巡る」

桜の下での昼食。薬師寺の薄墨桜も満開。羅城門跡にも立ち寄る。二十八名

◆平成二十三年七月三十一日 「醒ヶ井・余呉湖バスハイク」

醒ヶ井のバイカモ、渡岸寺の十一面観音、余呉湖畔を楽しむ。バスの中では、小嶋先生よりクイズビンゴ。五十一名

◆平成二十三年十月二日 「宇治回遊・源氏物語古跡を巡る」

佛徳山の展望台からは、宇治川の豊かな流れと市街が一望。三十四名

◆平成二十三年十一月二十日 「木津川べりと布目川溪谷を柳生へ」

布目川溪谷の奔流添いの道端で昼食。これも又良し。

甌穴や初紅葉。家老屋敷・陣屋跡・天石立神社・芳徳寺。
二十一名



紅葉の円照寺山門にて

◆平成二十三年十二月四日 「白毫寺・円照寺・正歴寺を巡る」

頭塔、円照寺の紅葉、山道での冬青^{そよご}、冬の花蔭、正歴寺の南天。先生の沸かしてくださった紅茶で楽しむ。二十六名

◆平成二十四年一月八日 「山の辺の道散策と大神神社など初詣」

黒塚古墳、三輪そうめん「山本」で昼食。松原神社、狭井神社。三十名

◆平成二十四年三月四日 「高取町の雛めぐりと高松塚古墳など」土佐街道の家並み、雛飾り。小雨の中明日香村へ。約十キロ。三十一名

料理を楽しむ会

安永まり子

食えることが大好きな私に、サークルの方が誘ってくださり「料理を楽しむ会」に通わせて頂いてもう五年になります。

レシピブックも三冊になり、毎日の献立に大活躍して

います。家族からも好評で、特に息子が帰ってくると、リクエストに応じて頑張って作っています。

教室では、だいたい六人くらいで、五品とスイーツを九時半から二時間かけて作っていきます。昔にタイムスリップしたように、従順な生徒で、皆さん口も手もフル回転でワイワイと楽しく調理しています。失敗も多いのですが、さすがベテランの主婦です。それなりに最後にはおいしく出来上がります。

それぞれの家庭でのちよっとした料理のアイデアも教えて頂き勉強になります。

料理が完成すると、試食タイムが始まります。先生を囲んで、皆で「おいしいね」と笑顔で食べ、おしゃべりしたりして楽しいひとときです。

この会がここまで続くのも、松村先生のご尽力の賜物で、季節の献立から本格的な懐石料理・中華・洋食・スイーツと様々な献立を考えてくださり、その面白い物もすべて整えてくださいます。

先生、いつも有難うございます。皆さんも一度いらしてみてください。

毎月 第三木曜日 平城西公民館にて

中国語同好会

井口実津子

「早上好」（おはようございます）で始まる中国語教室。一時間半の間は、学生に戻り松村先生のもと、今は「テレビで中国語」を教材に授業が進んでいます。

最初に先生が読み方、発音、意味を説明してください、その後私たち一人ずつ読み、間違っている発音・読み方を直して教えてください。また、その折々にその言葉に係わる中国の話や、現在の中国のことなどにも触れてくださり、語学だけでなく楽しいお話なども聞かせて頂いています。時には中国でお仕事をされていた方もいて、話が盛り上がります。

その後は中国語のヒアリングです。テープで聞いた会話を基に、先生やお互い同志で質問したり、答えたりと、大変難しくチョット苦手です。勿論上手に会話できる人もいます。結構頑張つて勉強してられる方も多いです。勉強不足を歳のせいにしては、と思いつつも歳に甘えさせてもらっています。耳をすませば中国語が聞こえてきた……そんな場面がふえているのではないでしょう

か。

二〇一〇年日本を訪れた中国人の数は、百四十万人を突破。新幹線や観光地、本当に必ずというほど中国人を見かけます。今は震災で少し減っているようですが、買い物目的の観光客も多く、良質な日本製品を求めて、賑やかで活気ある人達だなど、中国の力を見る思いです。そんな旅行中に、中国語で話しかけられれば心通じ合うひとときを持って、楽しい日本の思い出になるのではないのでしょうか。

松村先生には、大変お忙しいにもかかわらず、温かく親切にご指導くださり、とても感謝しています。又仲間達も明るく楽しい方ばかりで、居心地良く勉強させて頂いています。文化祭では二胡の演奏や、いま中国で流行っている日本の童謡を中国語で歌いました。

木曜日 初級 九〜十時半

上級 十時半〜十二時

北部会館三階にて

欢迎光临

パッチワーク研究会 房川 幸子

「きれいなバッグ 私も作ってみたいわ。」

「簡単に作れるわよ。教室に来たら?」

これが、私とパッチワークとの出会いです。早速パッチワーク研究会に入部させて頂きましたが、何しろ針を持つのは三十年ぶりと言っても大げさではない私。一針一針慎重に針目をそろえて……。調子が出てきたと思つたらチクリッ、指先に針が刺さり出血。休んで再び続けるとまたチクリッの繰り返しです。もう止めようかなと思いつつも針を進めていくうちに、少しずつ形になっていくのを目にし、痛さを忘れ、自然に笑みがこぼれている自分に気付きました。

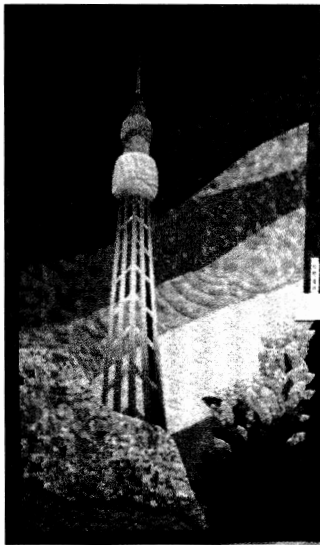
夏に咲くエンジェルトランペットをモチーフに、出来上がった私のバッグは、完成までに九ヶ月近くかかりました。

「これ、私が作ったバッグだよ。」と自慢して持ち歩きたいような、初作品だから汚さないように大切に飾っておきたいような。今も複雑な心境で、タンスから出した

り入れたりにしています。

入会二年目にして出品した作品展を見に来てくれた友が、パッチワークに魅了され教室に通うようになりました。同じ趣味を持つことで、友情が深まります。

下手の横好きの身ですが、教室に行くとメンバーの方々と談笑する中で、作品を見せ合ったり、アドバイスを受けたりと、楽しく過ごすことが出来、時間を忘れるほどになります。これからお休みすることなく通いたいと思っています。



文化祭出品

堀部 澄枝さんの作品

園芸の会

真中 礼子

四季折々のきれいなお茶碗に映えるお抹茶と、おいしいお菓子を頂き会が始まります。

「園芸の会」の会員の方々は、お花が大好きな方ばかりです。当たり前ですよ。

北村先生にご指導を受けて、挿し芽の仕方や植え方など教えて頂くときは、皆一生懸命です。皆さんは家に帰って、きつと教えて頂いたとおりにされていることでしょうか。

北村先生は、茶道と華道も教えておられます。高の原駅構内に活けられているお花、皆さん目にされていらっしやるでしょうか？ あのお花は北村先生が活けておられるのです。毎日始発の電車が出る前に駅に行かれ、活けたりお水を変えたりなさっておられます。私も通るたびに、今日はどんな花が活けられているのかなと思いがら、見事なお花を見て感動し、心癒されております。

この頃は、先生のお宅の床の間の活け花を見て季節を感じ、携帯で写真を撮らせて頂き、待ち受け画面にして

楽しんでいきます。素晴らしい花器、それに活けられた凛

とした花を見えますますお花が好きになります。

時にはとんちんかんな質問をして先生の笑いを誘ったりしますが、楽しい教室です。

皆さんもいかがですか、お仲間になりませんか。



川柳入門講座

島川恵美子

平成二十一年秋、川柳入門講座が始まると聞き、軽い気持ちで参加しました。

日頃、新聞その他で、健康川柳、サラリーマン川柳などをよく目にし、身近な出来事や自分の思いを自由に表現、ユーモラスで楽しそうだなアくらいに考えていました。

日常生活で物忘れや思い違いなど、ミスが多くなってきたと実感していますので、頭の体操、老化防止にもと勝手を解釈していました。が、いざ五・七・五にまとめようとなると、なかなかうまくいかず、語彙の少なさを、発展して角度を変えて物事を見る力の無さに情けなくなり、続けられるか心配でした。

幸い今は、奈良番傘会会長の松田 俊彦先生に、初心者向けに易しく丁寧にご指導いただいております、少しずつですが川柳の難しさ、楽しさが解りかけてきたところです。

月一回の講座に先生から出された「課題」の捉え方が



2012.01.18

楽しい五七五に笑顔いっぱい

人それぞれで、思いがけない発想や言葉の広がりの違いに、毎回驚かされ頭の柔軟さに感心しています。

初めの頃は興味津々で、

《何見ても指折ってみる五・七・五》

でしたが、その内あれこれ迷い、堅苦しく重い感じになつてしまひ

《迷い込み溜息まじり五・七・五》

となつて、もたもたしている時にふと浮かんだ

《何気ない言葉ふくらみ五・七・五》

に、戻るといふことの繰り返しです。

一人ではなかなか続けられないので、周りの人達からの刺激を受けながら、ふんわりした楽しい句が作られるよう、長く続けていきたいと思っています。

些細なことから宇宙まで、想いを拡げて、楽しい時間をご一緒しませんか。

トールペイント「ばらの会」 中野美恵子

私達の習っているトールペイントは、アッセンデルフトといつて、オランダのアッセンデルフト地方に伝わる伝統的なペイントの技法で、花を中心に風景などを描いています。

筆に何色かの絵の具を重ねてつけて描いていきます。平筆や、大・中・小の丸筆で、いろいろなお花が出来上がります。羽子板やティッシュボックス・木の小物・布地の傘やバッグ・グラスにも美しいお花を描くことが出来ます。最近では壁飾りを描いています。

もともと絵心の無い私でも、西本先生のご指導のもと、筆の扱い方、色の使い方を教えて頂き、楽しく作品が出来上がります。最後の仕上げは、西本先生が必ず見てくださり、手を加えてくださるので、素敵な作品になります。

毎月第二水曜日 午後一時から四時まで平城西公民館で学習しています。楽しいひとときを、ご一緒しませんか？ お待ちしています。

絵画の会

大台 雅生

ゴッホと劉生の自画像

日本画の世界には、自画像というジャンルがないように、古今、画家の自画像を見たことがないが、西洋画では近世、特にルネサンス以降、画家の自画像がよく登場するようになる。

これは自我、個が主張されるようになった文芸運動と密接に関連があると考えられる。我々がよく目にするのは、かのゴッホの自画像で、ゴーガンとの共同生活が破綻し、自ら耳を切り落とし頬かぶりした異様な表情ゴッホの姿である。

日本では岸田劉生が一時期盛んに自画像を描いているが、脂ぎった中年の精力的な、自らを恃む面構えをよく表現している。

東西の二人の巨人の自画像は絵画の歴史においても興味深い足跡を残している。

◎ メンバーのプロフィール

絵画の会のメンバー六名を自画像に先立ち紹介したい。

K・Y氏

会の代表で最年長、画歴も五十年を超える重鎮、水彩を得意としているが油彩もこなし、画風はいたずらな技巧を排して情感を素直に表現し、氏が敬愛するフランスの後期印象派のアフリ・ルソーの作品に似ている。

今年卒寿を迎える高齢にもかかわらず車の運転もこなし、まさに高齢社会の寵児?といえよう。

U・Z氏

第二代文化協会会長を手堅く務め、網干先生の後任の重責を立派に果たされる。

絵は正確な構成、綿密な描写で定評があり、卓越した写実の持ち主である。

また色紙を微細に貼り付けた独自の切り絵は見事でありその根氣にいたく敬服する。

T・O氏

県美術内協会の正会員で、まさに専門家集団のれっきとしたメンバーである。

市美術展に連続入選する実力の持ち主であり、日本画と共に彫塑部門で特選、市長賞を受賞しており、業績は会随一であろう。

N・M氏

古い絵画のメンバーというよりミュージシャンとして
広く名が通っており、ならやまハーモニカ・クラブの主
催者で、活発に演奏活動を展開している。

画は丁寧で克明に描かれており、瑣末をおろそかにせ
ず、誠実なお人柄が作品の随所に表れている。

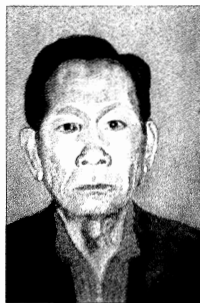
H・Y氏

戦後生まれ（湾岸戦争ではなく先の大戦）の唯一の若
手で、精力的な創作力は数多くの作品を発表しており、
その一部はネットで販売するほどである。特にデッサン
力に優れ、完成度が高く、商品としても十分に通用する。

O・M（小生）

若い時より絵が好きで、自分勝手に描いていたので、
通算すると随分長くなるが、一向に進歩していない。

極めて気分的で根気に欠ける資質は致命的である。た
だ、人のお世話は好きで、ややお節介な性格は、世話人
としては適任ではと自分で納得している。



読書会

山内 梅乃

平成二十三年度 活動報告

四月一日 春の亀岡文学散歩

五月二十三日 「火の粉」 雫井 修介

六月二十七日 火の粉を読んで 講演会

講師 吉田 治正氏(元裁判官)

七月二十二日 「老いて青春」 溝江 玲子

八月二十五日 「聖徳太子と継体天皇」

中川 明秀

九月二十三日 講演会 「大和ことば」

講師 上町 一之氏

十月二十八日 「一茶」 藤沢 周平

十一月二十五日 「一命」 滝口 康彦

十二月二十三日 「拝領妻始末」 滝口 康彦

一月二十七日 新春の集い

「私の戦中戦後」 岡田 越子

二月二十四日 「楡家の人々」 北 杜夫

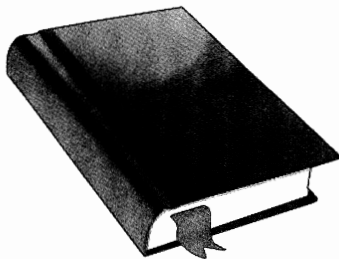
三月二十三日 「息子はなぜ白血病で死んだのか」

鳴橋 美智子

しっかり読んで、楽しく語り合いましょう

毎月第四金曜日 十時～十二時

右京ふれあい会館



俳句入門

平石 勝史

ならやま句会 吟行のたのしみ

ならやま句会は毎月一回、第二木曜日午後一時～四時、平城院（神功二丁目十の八）で定例会を開いています（八月は休み）夏の初めごろに仲間と野外に出かけて俳句を作る吟行会を行っています。

昨年は六月、神功三丁目近隣公園（通称池公園）に吟行、平城集会所で句会を行いました。

朝十時半に集合、先ず全員揃ったところで集合写真を撮りました。皆、余裕綽々リラックスしていました。薄曇りとはいえ、日差しもある絶好の吟行日和でした。

出句締切は十二時四十分で、時間内に作った内の七句を出句します。

早速各自、一人で或いは連れ立って、思い思いの方に散らばって行きました。

池を一巡りする間に、六月・夏燕・青さぎ・ばん・かいつぶり・よし切・糸とんぼ・アメンボ・銭亀・睡蓮・うきくさ・青あし・がまの穂・薫風・夏木立・緑蔭・青

葉・梅雨晴・夏帽子・蜘蛛の囲・蟻・麦茶・．．．などの季語と成るものや、遠足の幼稚園児・釣り人・散歩の人との会話やいろいろなことに出会いました。

「秋風や眼中のもの皆俳句」 高浜 虚子

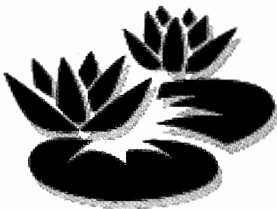
全員が出句締切に無事？間に合ってほっとしたのでしょいか、後の昼食の会話が弾みました。

午後の句会では、出句を互選しそれを披講します。

自分の句が読み上げられれば、その場で名乗ります。最後に先生が講評して終わります。

自分の句が選をされたり、評価が良ければ励みになり、句作が更に楽しくなります。

興味のある方、見学も大歓迎です。句会見学に一度お越しください。



詩吟の会

富江 八重

父の謡（観世流）と、お経（般若心経）を聴いて育った私は、節の抑揚というものが、何となく不思議で大好きでした。

父が袴姿で、「タチイデテ、ミネノクモ・・・」と言っているのを、小さな子供の私が、大声出して真似をすると、いつも父が「上手、上手」と褒めてくれたことが、今でも懐かしく想い出されます。

一年半前、雅号を頂くとき、会長にお願いして母の名前の「せい（清）」という字を付けて《岳清》を頂きました。（真風流会長は 堤岳 なので、上に岳が付きます。）

母も詩吟（撰楠流）を習っていたので、喜んでいることと思いますが、二十二年前に、父も三十七年前に旅立ってしまいました。私は親不孝者で、両親の死に目に会っていませんが、今の詩吟に導いてくれたのも今は亡き父母と思えてなりません。

私にとつて至福のときは、詩吟のテープを聴きながら大声を出して、お茶している時、と言っても過言ではな

いほです。私がこんなにも幸福なのは、趣味としての詩吟に出会えたこと、それ以外に環境、人生の師となる先輩の方々がいらっしゃるお蔭、そして何より西尾弘子先生にお会いできたこと、先生のお蔭と感謝いたしております。これからも、生涯の楽しみとして長く続けていきたいと思っております。

皆さんも一緒に詩吟を楽しみませんか？



手編み同好会

鷺尾 牧子

手編み同好会は、昨年開講され早一年になります。堀口先生は、いつも素敵な手編みのセーターを身に付けていられていて、あこがれの的です。

同好会には、いつも沢山の見本の作品、編み方コピーを用意してくださいます。

今年の文化祭の折、私はアクリル一〇〇%の毛糸で、色や形を変え、沢山のタワシを作って出品しました。これは、洗剤なしで汚れが良く落ち、環境に優しく、手にも優しいので、我が家の必需品なのです。残り糸の活用にもなります。ご近所、お友達にも差し上げて大変喜ばれています。文化祭を見学に来て下さった市長さんにも差し上げたら、喜んでお持ち帰りくださいました。

今年も、可愛い「ひざ抱き人形」を作り、親戚や、お友達にもプレゼントしたし、我が家の玄関に飾って朝夕眺め楽しんでいきます。

最近の作品は、ヨーク付きの長めのベスト、思ったより早くできて、秋になったら着ようと今から楽しみにし

ています。

この会では、皆さん手持ちの毛糸を持ってきて作りたものを先生にアドバイスして頂き、おしゃべりしながら楽しく一針一針頑張って編んでいきます。時間のたつのも忘れ、あわてて帰り支度することもありません。温厚な堀口先生は、いつも優しく一人一人に親切にご指導して頂き、感謝しています。

私は、鉤針編みばかりの作品を作っていますが、いつかは棒針編みにも挑戦したいと思っています。

皆さんの完成作品を見せて頂くのも楽しみです、次作への励みになっています。

先生、今後ともどうぞよろしくお願いします。

押入れに眠っている毛糸をお持ちの方、何かの形にしませんか。

北部会館二階で毎月第一木曜日 一時から四時まで。是非一度覗いてみてください、お待ちしております。

歌声サロン

吉田 克治

歌声サロンに初めて参加したのは、昨年十月二十八日でした。十一月四日には平城ニュータウン文化祭の発表会があるので、この時期に入会するのは迷惑をかけるのではと電話したら、「来てください」と気持ち良く返事を頂いたので、遠慮なく出席しました。

参加してみると、やはり発表会の練習でした。練習が終わった後、発表会に出るように強く勧められ、調子に乗って出ることにしました。でも、十曲歌ううち二曲はあまり知らないものでした。その二曲を小島先生に楽譜のコピーをして頂き、家でパソコンを使って練習して発表会に出ました。

発表会では、大きな声を出して歌ったので、終わってみるとなんだか満足感が体中にみなぎっていました。普段大きな声で歌うことがないので、ストレスの発散になったようです。

ところで、私は歌が好きですが、上手くはないのです。六十歳後半になって、岩波文庫の「日本童話集」を買っ

て、大正・昭和の童謡をよく口ずさむようになりました。童謡を歌っていると何故か心が和むのです。

「歌声サロン」に入ってみると、童謡・唱歌・フォークソングなどの心安らく曲がほとんどで、メンバーの中には九十歳の方もおられて、皆昔のことを思い出して懐しく合唱しておられます。

ピアノを演奏して頂いているのは小島先生です。先生は、メンバーの中で一番若くユーモアのある方で、曲の初めには作曲者などの簡単な説明もしてくださいます。

現在会員は五十数名です。コーヒを飲んで、飴をなめて、季節の歌を歌って、ボケ防止と、ストレス発散をしませんか。

興味のある方は、是非参加してください。



古典文学を読む会

西村 好子

今私達は「源氏物語巻五」の「若紫」の段を読み進めています。私にとってこの段は、はるか昔、高校の試験問題に出たところで悔しい思いをした記憶があります。高校の古典の授業では、古語の意味や文法など堅苦しいものでしたが好きでした。今この時機になって再び「源氏物語」を学べることはとてもうれしいことです。途中からの入会で四年目に入りました。

浅田先生のお話は、とにかく面白く楽しいのです。学校の授業とは違い対象が年配者ばかりですから、先生はくだけた表現をなさいます。そこが面白く楽しいのです。情景が想像できるのです。光源氏十七・八才といえ、今の高校三年生だと思つと、超一流の貴族の子息の考え方や振舞いは、何と大人びていることでしょう。男の子を持たない私は驚くばかりです。

「源氏物語」の進め方は、最初に先生が読まれ、私達は読みにくい箇所をチェックします。次にそれぞれ黙読、最後にみんなで音読します。情景を想像しながらゆつく

り読みますが、声に出して読むことは一語一語頭に入りやすく勉強しているという感じになります。物語の展開のみ追っている私と違って、よく勉強されている方々は、古語や文法など質問されます。先生は丁寧に説明され、その事柄に関連したお話もしてくださいますので、話題が広がって楽しさが増します。

「枕草子」の清少納言と紫式部の作風の違いにも触れてくださり、二人の人生がどうであったか興味が湧きます。あらずじは知っていても、長編小説である「源氏物語」を、最初からきちんと読み進めていくことは、こういう機会でないとなかなかできないものです。

浅田先生と世話役さんに感謝の念で一杯です。これから「浅田源氏」を楽しみながら読んでいきたいと思つています。

例会日は

第一・第三の土曜日 十時から十一時半

右京ふれあい会館です。

第29回平城ニュータウン文化協会(平成23年)文化祭

第42回奈良県芸術祭参加

《 記 念 講 演 》

日 時 11月4日(金)
会 場 奈良市北部会館3階 市民ホール
開 場 9時45分
開 会 式 10時00分
主催者挨拶 平城ニュータウン文化協会 会長
奈良市北部会館市民文化ホール 館長
来賓挨拶
祝辞披露
講 演 10時30分
映画作家 河瀬 直美さん
演題 「映画製作への想い」



第29回平城ニュータウン文化協会(平成23年)文化祭

【展示の部】 11月3日～5日 会場 北部会館市民ホール

- ◆パッチワーク パッチワーク研究会 リーダー 打田 照子
 打田 照子 新司 輝江 樺原千鶴子 若原 和子 井本 市子
 鳥川恵美子 堀部 澄枝 田中 純子 森村むつみ 林田 敦子
 房川 幸子 住吉 紀子 石井 とき
- ◆俳句 ならやま句会「俳句入門」 主宰 牧野 和代
 牧野 和代 岩田 禎彦 上田 善次 大橋 春代 岡田 安弘
 立石 和恵 西田たまみ 平石 勝史 福井佐知子 福島 勢子
 三甲野美栄子
- ◆絵画 絵画の会 大台 雅生
 小西 淑彦 上田 善次 辻中 修 西村 通弘 山田ツル子
 日比野 豊 大台 雅生
- ◆折り紙 折り紙を楽しむ会 講師 山田 玲子
 箕 ゆり子 河合智恵子 寺谷 征子 谷口三枝子 中野美起子
 久本 美鈴 本井 房子 山形 幸枝 吉江 園子 渡邊 千津
 池西 和代 西島 芳子 最上紀久子 山田 玲子
- ◆古文書 古文書を読む会 リーダー 石川 恒久
 原文書のコピー6点ほかを展示
- ◆押し花 押し花を楽しむ会 講師 高橋かおり
 井岡利江子 伊藤 京子 岡田真千子 奥谷 敏子 木村 絢子
 杉山 安枝 鈴木佐知子 谷口早智子 西本万優美 野原 雅子
 吉田 敬子 若原 和子 高橋かおり
- ◆写真 フォトショップ入門 講師 赤坐 右一
 赤坐右一
- ◆短歌 短歌を楽しむ会
 岡田 越子 玉置 小代 松村せつ子 森田 陽子 馬場 恭子
 石井 光子 川端和加子 安田 和子 鍋島 美春 小山マサ子
 岩井 幸子 岡 典子 野村 道子
- ◆生け花 園芸の会 講師 北村 孫衛
 北村 孫衛

◆トールペイント ばらの会 講師 西本直江
 西本 直江 奥谷 敏子 景山 光代 久保 紀子 高田 雅子
 棚田 博代 中野美恵子 西本万優美 松村せつ子 染川 夏子
 山本喜代美 吉田 敬子 若原 和子

◆川柳 川柳入門講座 講師 松田俊彦
 松田 俊彦 今吉 利子 上田 善次 川端和加子 島川恵美子
 竹本 俊平 玉置 小代 高須 敏子 堀口 千秋 松村 如洋
 松村せつ子 渡邊 千津

◆編み物 手編み同好会 リーダー 堀口 千秋
 浅田 知里 打田 照子 笈 ゆり子 唐橋 元子 岸田 敦子
 黒田 節子 島川恵美子 高岡 文子 田中 純子 田村 恭子
 西脇 岑子 久本 美鈴 前田 初代 松村せつ子 目黒 充子
 鷺尾 牧子 堀口 千秋

◆「源氏物語の花」古典文学（源氏物語）を読む会 講師 浅田 知里

◆喫茶コーナー 料理を楽しむ会
 会員有志

◆パネル展示によるグループ活動の紹介

「ゆっくり歩こう会」「料理を楽しむ会」「丹田呼吸健康法」
 「歌声サロン」「詩吟の会」「飛鳥学講座」

【上演の部】 11月4日（金）13時30分～ 会場 北部会館市民ホール

開演 開会挨拶 司会 古川千鶴子

◆箏曲 菊池雅千絵&グループ翔

1) 黒田節による幻想曲/沢井忠夫作曲

ソロ 菊池雅千絵

1 箏 南湖雅千紗 吉本 康子 藤井よし子 松本八代委 山本 弘子

2 箏 比良 尚美 田處 節子 津坂 恒子

17弦 山内 正子

2) わらべ唄/佐藤義久編曲

1 箏 南湖雅千紗 山内 正子 吉本 康子 藤井よし子 松本八代委

山本 弘子

2 箏 比良 尚美 田處 節子 津坂 恒子

17弦 菊池雅千絵

◆詩吟 詩吟の会 西尾弘子

(吟題)	(作者)	(吟者)
1) 将に東遊せんとして壁に題す	釈 月性	西村諄輔
2) 春日山懐古	大槻磐溪	平尾成子
3) 青葉の笛 (歌入り)	松口月城	大浦貞子 女性有志
4) 後夜仏法僧鳥を聞く	空海	川崎泰子
5) 大楠公 (連吟)	河野天籟	木村麻子 木村有美子
6) 国見の歌 (和歌)	舒明天皇	中務明美
7) 涼州詞	王翰	杉田英二
8) 太田道灌 (和歌入り)	作者不詳	是永ユキ子 松尾淳子
9) 凱旋	乃木希典	富江八重
10) 余生	良寛	吉田輝子
11) 名槍日本号 (歌入り)	松口月城	出演者一同

◆英語で歌おう 英語講座 指導 橋本 友子

- 曲目 1 Bridge Over Troubled Water
2 Yesterday Once More
3 Top Of the World

◆二胡演奏と中国語で歌おう 中国語同好会 ピアノ伴奏 中谷 董子

- 曲目 二胡 拾花轿 (河北民間楽曲、結婚の行列の様子を表した曲)
演奏 大久保里美
歌 1 月亮代表我的心 (月は私の心を映し出している)
2 情人的关怀 (「空港」テレサ・テン)
3 故乡的秋季 (里の秋)

◆コーラス 歌声サロン 指導・ピアノ 小島 順

- 曲目 1. 故郷の空 6. 公園の手品師
2. 荒城の月 7. あの素晴らしい愛をもう一度
3. あざみの歌 8. 見上げてごらん夜の星を
4. 森へ行きましょう 9. 誰か故郷を想わざる
5. 瀬戸の花嫁 10. 野に咲く花のように

【上演第二部】 11月5日(土)開演13時00分～ 会場 市民文化ホール

開演 地域で活動されている皆さん 司会 打田 照子

開会挨拶

◆日本民謡 童由(土橋童由)

- 曲目1. 三味線合奏 りんご節、津軽じょんから六段曲弾き
- | | | | |
|--------------|-------|---------------|------|
| 2. 串本節 | 原田はるみ | 8. おてもやん | 木村奏心 |
| 3. 南部酒屋酩酊すり歌 | 国井益子 | 9. シャンシャン馬道中唄 | |
| 4. 天竜下れば | 中矢陽子 | | 藤岡 緑 |
| 5. 伊勢音頭 | 保田京子 | 10. 正調伊勢音頭 | 中村 藍 |
| 6. おてもやん | 佐藤優美 | 11. 日向木挽き唄 | 杉目夏美 |
| 7. 丹波の国の祝い唄 | 木村律道 | 12. ソーラン節 | 土橋童由 |

◆ウクレレ、ギターとフラダンス 四ツ葉会(田村邦子)

曲目★オープニング (you are my sunshine)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. マウイガール | 6. 鳥は常夏(フラ) |
| 2. 涙そうそう(フラ) | 7. プア アアリー(フラ) |
| 3. 南国の夜(フラ) | 8. パイナップルプリンセス |
| 4. ラブ | 9. 今日の日はさようなら |
| 5. 夜霧のしのび合い | |

◆オカリナ そよ風(馬場宏美)

- | | |
|----------------|------------------|
| 曲目1. 踊り明かそう | 5. あの素晴らしい愛をもう一度 |
| 2. アメージング・グレイス | 6. 証城寺の狸ばやし |
| 3. ミッキーマウスマーチ | 7. ふるさと |
| 4. 小さな世界 | |

◆ハーモニカ ならやまハーモニカクラブ(西村通弘)

- | | |
|------------------|----------------|
| 曲目1. オープニング(はて?) | 5. 見上げてごらん夜の星を |
| 2. 秋の歌メドレー | 6. すばる |
| 3. 瀬戸の花嫁 | 7. 水色のワルツ |
| 4. ここに幸あれ | 8. きよしのズンドコ節 |

◆フラダンス 奈良市北部会館フラダンスチーム

- | | |
|----------------|---------------|
| 曲目1. エホイカピリ | 4. ホノルルハーバー |
| 2. プロッサム ナニホイエ | 5. カウア ノエアヌヘア |
| 3. アフリリ | 6. ポバイケアロハ |

閉会挨拶



「折り紙を楽しむ会」の展示場で、折り紙を手に談笑なさる仲川市長



「古典文学を読む会」【源氏物語】の秋の花々

平城ニュータウン文化協会第30回(2012年度)総会

日 時 2012年5月27日(日)

会 場 奈良市北部会館3F多目的室1

I 開会挨拶

II 会長挨拶

III 来賓祝辞

IV 議長選出

V 議事

① 2011年度事業報告

② 2011年度決算・監査報告

③ 2012年度役員選出

④ 2012年度事業計画(案)

⑤ 2012年度予算(案)

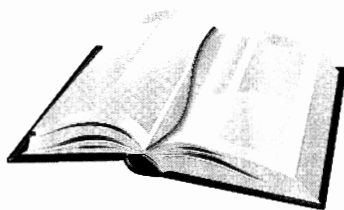
⑥ その他

V 閉会挨拶

記念講演 「日本書紀をめぐるって」

講師 奈良大学文学部史学科教授 文学部長

寺崎 保広先生



2011年度 事業報告

- 4月25日(月) NEWS 18号発行(5・6月の講座・同好会開催予定)
- 5月3日(火) 層富編集会議
- 5月8日(日) 役員会
- 5月29日(日) 2011年度(29回)総会
講演会 奈良大学 千田嘉博先生「日本の城・世界の城」
- 6月5日(日) 役員会
- 6月7日(火) 層富編集会議
- 6月25日(土) NEWS 19号発行(7・8月の講座・同好会開催予定)
- 7月2日(土) 役員会
- 7月10日(日) 理事会
- 7月20日(水) 「層富」No.28発行
- 7月27日(水) 文化祭行事部・展示部・上演部打ち合わせ
- 8月25日(木) NEWS 20号発行(9・10月の講座・同好会開催予定)
- 9月17日(土) 秋のセミナー開催 奈良大学 滝川幸司先生「平安和歌と奈良」
文化祭行事部・展示部・上演部打ち合わせ
- 9月27日(火) 全戸配布「文化祭のご案内」発行
- 10月5日(水) 役員会
新講座「飛鳥学講座」開講
- 10月22日(土) NEWS 21号発行(11・12月の講座・同好会開催予定)
- 10月26日(水) 役員会
- 11月3日(木) 第29回文化祭開催 講座・同好会の作品展示
- 11月4日(金) 開会式 文化祭特別記念講演 映画作家 河瀬直美さん
「映画製作への想い」
作品展示と上演
- 11月5日(土) 作品展示と上演(地域で活動されているグループ)
- 12月3日(土) 文化祭反省会(茶話会)出席者26名
- 12月22日(木) NEWS 22号発行(2012年新年号1・2月の講座・同好会開催予定)
- 1月21日(土) 役員会
- 2月18日(土) 役員会
- 2月23日(木) NEWS 23号発行(3・4月の講座・同好会開催予定)
- 3月10日(土) 理事会

2011年度会計・決算報告

平成23年4月1日～24年3月31日

単位・円

収入の部

項目	予算	実績	増減	備考
前年度繰越金	89,823	89,823	0	
会費	375,000	417,000	42,000	1,500×278人
後援費	50,000	50,000	0	各連合自治会
寄付金	0	0	0	
雑収入	5,177	3,332	△1,845	銀行利息・余剰金
合計	520,000	560,155	40,155	

支出の部

項目	予算	実績	増減	備考
事業費	210,000	182,503	△27,497	文化祭・セミナー他
助成金	0	0	0	
会議費	10,000	11,460	1,460	会場費・資料代
広報費	285,000	252,956	△32,044	会誌・会報・ニュース
事務費	7,000	1,606	△5,394	事務用品
通信費	3,000	2,445	△555	郵送料
渉外費	2,000	0	△2,000	協賛費
雑費	2,000	0	△2,000	
予備費	1,000	0	△1,000	
積立金	0	20,000	20,000	
小計	520,000	470,970	△49,030	
次期繰越金	0	89,185	89,185	
合計	520,000	560,155	40,155	

積立金合計 86,222

網干基金 194,027

会計監査報告

2011年度の会計帳簿、証票類他、関係書類等を精査した結果適正であることを認めます。

2012年3月31日

監事 浅田 知里

役 員

顧問	上田 善次	東 叡			
参 与	梶野 哲				
会 長	松村 如洋				
副 会 長	大台 雅生	橋本 友子			
常 任 理 事	赤坐 右一	石川 恒久	川崎 泰子	喜多 正恵	
	北村 孫衛	小島 順	島川恵美子	鈴木佐知子	
	藤澤 陽子	堀口 千秋	松村せつ子	山田 玲子	
(新理事候補)	田中 純子	高橋かおり	谷口三枝子	真中 礼子	
	岡田 安弘	福沢 満子	佐藤 和子		
事 務 局 長	玉置 小代				
事務局次長	打田 照子				
会 計	谷口三枝子				
監 事	藤澤 陽子	島川恵美子			

組 織 分 担

広 報 部	(部長)	堀口 千秋	田中 純子		
組織・配布部	(部長)	松村せつ子			
行 事 部	(部長)	大台 雅生			
文化祭上演部	(部長)	松村 如洋	小島 順	橋本 友子	
文化祭展示部	(部長)	鈴木佐知子	赤坐 右一	打田 照子	
		松村せつ子			
会誌「層富」編集部		上田 善次	玉置 小代	打田 照子	
		島川恵美子	藤澤 陽子	堀口 千秋	
		松村せつ子	田中 純子		

配布委員（会報など）

神功地区（松村せつ子）

第1団地	松村せつ子	3丁目	谷口三枝子	松村せつ子
1丁目	橋本 友子	4丁目	橋本 友子	
ガーデンハウス	藤澤 陽子	5丁目	西脇 岑子	
2丁目	福井佐知子	6丁目	上田 善次	

右京地区（飯田雅子）

第2団地	山田 玲子	三宅美苗		
3丁目	飯田 雅子	今村由美子	山本喜代美	
4丁目	岡田 越子	堀口 千秋		
5丁目	堀口 千秋			
右京団地	島川恵美子			

朱雀地区（鈴木佐知子）

1丁目	井本 市子	玉置 小代		
2丁目	打田 照子			
3丁目	鈴木佐知子			
4丁目	日下部清美			
5丁目	鷺尾 牧子	西田たまみ		
第1住宅	福沢 満子	鈴木佐知子		
第2住宅	真中 礼子			
6丁目	大久保里美			

左京地区（喜多正恵）

1丁目	杉山 安枝	南 多美子		
2丁目	喜多 正恵			
3丁目	前田 初代			

相楽台

富江 八重

兜台

川崎 泰子

2012年度 事業計画

はじめに

平城ニュータウンも高齢化が進み、「地域をいかに活性化させるか」が大きな課題となっています。昨年、第29回文化祭では皆様のご協力を得て講師に河瀬直美監督をお招きし、来場者も例年の2倍に達するなど、成功裡に開催できました。また、セミナー開催のほか、新しく「飛鳥学講座」（講師：木下正史東京学芸大学名誉教授、日本文化財科学会会長）を開講、さらに櫛原 聰先生（歌人、前東大寺学園教頭）も「短歌を楽しむ会」の講師をお引き受け下さいました。

また、地域の62名の方が新たに入会され、会員も大幅に増えました。

今後も、講師・リーダーのご協力を得ながら、皆様のご希望に沿った様々な文化活動を活発に展開し、「地域文化の発展に寄与」できるよう努めてまいります。

- 1 趣味、学術、芸術などの文化講座・同好会の開催
現在、優秀な講師、リーダーのご指導により、ユニークな23の講座・同好会を開催しています。今後もこれらを継続し、また会員の要望に応じて新しい講座などを開設します。
- 2 「第30回平城ニュータウン文化祭」の開催
開催日 平成24年11月2日（金）、11月3日（土）、11月4日（日）
会 場 奈良市北部会館3F
共 催 奈良市民文化ホール（後援：奈良県・奈良市教育委員会）
内 容 各講座・同好会の作品展示と上演
- 3 「第30回平城ニュータウン文化祭」記念講演会及びその他セミナーの開催
会員及び地域の皆さんが特に関心を寄せておられる問題をテーマに講演会を開きます。
- 4 会報の発行「文化祭ご案内」全戸配布
- 5 「平城ニュータウン文化協会NEWS」の発行（隔月）
講座・同好会の開催日時、内容、活動状況をご案内します。
広報活動として全自治会にNEWSを回覧します。
- 6 会誌「層富」No.29の発行
講座・同好会の活動、研究結果の発表、各種情報提供などを掲載します。
- 7 平城ニュータウン各自治会、連合会など地域団体との連携、協力
各地域団体との連携を密にし、その活動、催しに積極的に参加・協力することにより、ともに地域文化の発展に寄与します。
- 8 会員の増強と財政の安定化
平城ニュータウンの方々に「講座・同好会」など文化協会活動へのご理解を得て、参加を積極的に呼びかけ、会員を増やします。そして組織の強化に努め、文化協会の活力を高めます。

20012年度 予算

平成24年 4月 1日～25年 3月31日

単位・円

収入の部

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	89,185	
会 費	420,000	1500円×280人
後 援 費	50,000	各自治連合会
寄 付 金	0	
雑 収 入	10,815	銀行利息等
合 計	570,000	

収入の部

項 目	金 額	備 考
事 業 費	220,000	文化祭・セミナー他
助 成 金	0	
会 議 費	15,000	会議・資料代
広 報 費	300,000	会誌・会報・ニュース他
事 務 費	5,000	事務用品
通 信 費	4,000	郵送料
渉 外 費	3,000	協賛費など
雑 費	2,000	項目にない出費
予 備 費	1,000	
積 立 金	20,000	
合 計	570,000	

積立金合計	平成23年	¥86,222
	平成24年	¥20,000
計		¥106,222
網干基金		¥194,027

平城ニュータウン文化協会 会則

第1章 総 則

- 第 1 条 この協会は平城ニュータウン文化協会という。
第 2 条 本部は会長宅に、事務局は事務局長宅におく。

第2章 目的及び事業

- 第 3 条 会員の研究・創作発表・知識の交換並びに会員相互間及び他の文化団体との連携、提携の場となり、相互文化に関する進歩普及を図り、地域文化の発展に寄与することを目的とする。
- 第 4 条 前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 1 講演会・研修会・展覧会・発表会・文化講座等の開催。
 - 2 関連文化団体との連携及び協力。
 - 3 研究の奨励及び研究業績の表彰。
 - 4 会誌の発行。
 - 5 その他。目的を達成するために必要な事業。

第3章 会 員

- 第 5 条 平城ニュータウンおよび近隣地区に在住又は勤務する者で、協会の目的に賛同する者とする。
会員の種別は次のとおりとする。
- 1 正会員 年会費 1500円
但し、高校生 500円
 - 2 賛助会員 この協会の趣旨に賛同する者で、年間会費5000円以上収める個人又は団体とする。
 - 3 会員の更新手続きは不要とするが、会費は総会后3ヶ月以内に納入のこと。但し、2年間会費納入なき場合は退会と見做す。

第4章 役 員

- 第 6 条 協会には次の役員を置く。
会長 1名、副会長 3名、常任理事 若干名
事務局長 1名、事務局次長 1名、会計 1名
理事 若干名、監事 2名。
- 第 7 条 理事は正会員中より選出する。
- 2 会長、副会長、常任理事は理事の互選で定め、総会の承認を得る。
 - 3 事務局長、事務局次長、会計は理事中より会長がこれを選任し、総会の承認を得る。
 - 4 監事は会員中より2名選出する。
- 第 8 条 会長は協会を代表する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は代行する。
 - 3 理事は理事会を組織し、協会に関する事項を審議し執行する。
 - 4 常任理事は理事会の決定に基づき業務遂行に当たると共に、総会で決議した事項を執行する。

- 5 事務局長は会務の遂行に関する理事会、常任理事会等の決議に基づき全般の事務連絡処理に当たる。
 - 6 事務局次長は事務局長を補佐する。
 - 7 会計は会計事務を処理する。
 - 8 監事は会計帳簿を監査し、通常総会において報告する。
- 第 9 条 顧問・参与を置くことができる。顧問、参与は理事会の同意を得て会長が委嘱する。
- 2 顧問・参与は会議に出席して意見を述べることができる。
- 第 10 条 役員の任期は2年とし、再任は妨げない。
- 2 補欠より選出された役員の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員はその任期満了でも、後任者が就任するまで、その職務を行う。

第5章 会 議

- 第 11 条 理事会は必要に応じ、会長が招集する。但し、理事の3分の1以上から、会議の目的を示して請求のあった時は、理事会を招集しなければならない。
- 2 理事会の議長は、会長又は会長の指名する者とする。
 - 3 理事会は理事2分の1以上出席しなければ、議事を開き議決することはできない。
 - 4 理事会の議事は、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決す。
- 第 12 条 常任理事会は、会長、副会長、常任理事、事務局長、会計によって構成し、必要に応じ会長が招集する。以下理事会に準ずる。
- 第 13 条 通常総会は毎年1回会長が招集する。
- 2 臨時総会は、理事会が必要と認めた時、会長が招集する。
 - 3 総会の議長は総会出席者の中から指名する。
 - 4 総会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は議長が決する。
- 第 14 条 次の事項は通常総会に提出して、その承認を受けなければならない。
- 1 事業報告及び収支決算。
 - 2 会計監査報告。
 - 3 事業計画及び収支決算。
 - 4 その他、理事会に於いて必要と認めた事項。

第6章 会 計

- 第 15 条 経費は会費ならびに補助金、その他の収入による。
- 第 16 条 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第7章 会則の変更

- 第 17 条 この会則は、総会の議決を得なければ変更することができない。

第8章 補 足

- 第 18 条 この会則施行についての細則は、理事会の議決を得て別に定める。
- 第 19 条 この会則は、1983年（昭和58年）2月27日から適用する。

2012年度 講座・同好会一覧

	定期講座・同好会	講師 *世話人	T E L	曜日・時間	予定会場
1	古文書を読む会	リーダー石川恒久 *福沢満子	71-5367	第2・4土曜(10:00~12:00)	右京ふれあい会館
2	飛鳥学講座	木下正史 *玉置小代	71-0066	第1水曜(10:00~11:30)	北部会館多目的室1
3	古典文学を読む会 [源氏物語]	浅田知里 *藤澤陽子	71-1956	第1・3土曜(10:00~11:30)	右京ふれあい会館
4	読書会	*山内梅乃	71-1654	第4金曜(10:00~12:00)	右京ふれあい会館
5	英語講座	橋本友子	71-0395	第2・3・4・5月曜 初級(9:30~10:30) 中級(10:30~11:30)	右京ふれあい会館
6	中国語同好会	松村如洋	71-9605	毎木曜入門(9:00~10:30) 応用(10:30~12:00)	北部会館会議室1
7	俳句入門 平城山句会	牧野和代 *平石勝史	71-1777 71-5137	第2木曜(13:00~16:00)	平城院 (神功2丁目)
8	短歌を楽しむ会	樺原 聡 *玉置小代	71-0066	第2火曜(13:30~16:00)	北部会館会議室3
9	川柳入門講座	松田俊彦 *島川恵美子	71-1103	第3水曜(13:30~15:30)	北福祉センター 会議室
10	フォトショップ入門	休講			
11	絵画の会	*大台雅生	72-0456	第1・3火曜(9:00~12:00)	北福祉センター
12	料理を楽しむ会	松村せつ子	71-9605	第3木曜(9:30~12:00)	平城西公民館
13	園芸の会	北村孫衛	71-0823	第4木曜(13:00~16:00)	講師宅 (右京4-7-5)
14	詩吟の会	西尾弘子 *川崎泰子	0774 72-9399	第1・3水曜(13:00~16:00)	平城西公民館
15	歌声サロン	小島 順	71-5651	第2金曜(10:00~12:00)	北部会館多目的室1
16	パッチワーク研究会	打田照子	71-2879	第2・4金曜(13:00~16:00)	北福祉センター
17	押し花を楽しむ会	高橋かおり *鈴木佐知子	71-1690	第4水曜(10:00~15:30)	右京ふれあい会館
18	折り紙を楽しむ会	山田玲子	72-2552	第2火曜(10:00~12:00)	右京ふれあい会館
19	トールペイント ばらの会	西本直江 *松村せつ子	71-9605	第2水曜(13:00~16:30)	平城西公民館
20	ゆっくり歩こう会	小嶋敬二郎 *藤澤陽子	71-1956	奇数月第1日曜	
21	丹田呼吸健康法	砂田美雄 *堀口千秋	31-3179	第1金曜・第3日曜 (13:30~15:30)	平城西公民館
22	手編み同好会	リーダー堀口千秋	31-3179	第1木曜(13:00~16:00)	北福祉センター

編集後記

★ 今年は、古事記が編纂されて千三百年にあたります。

当、文化協会第三十回総会の記念講演に、奈良大学文学部長 寺崎保広先生をお迎えし「日本書紀と古事記」について、お話を伺いました。全国で様々なイベントが催されている折柄、会長 松村如洋が、聞き書きをまとめ、皆様にお伝えすることといたしました。

★ 新しい講座「飛鳥学」をお引き受け下さった木下正史先生から、ご寄稿を頂き、また短歌のご指導をお願いすることになった櫛原聰先生の作品も、掲載することができ嬉しい限りです。

★ 三十年にわたってご教導を賜った松岡禮一先生には、ご高齢なのでご自愛を願っています中、「平城ニュータウン文化協会の発足までのお話」をお寄せくださいました。この協会発足には、諸先輩のご熱意やご厚意があったことが分かりました。有難うございました。

★ 「層富」第二十九号をお届けするにあたり、堀口編集委員には今年の月号も、原稿のパソコン入力・CDへの取り込み作業ほか格別のご苦勞をかけました。

★ 「グループからの便り」に、それぞれ講座の様子をご報告いただいた皆様にも感謝を申し上げます。

(文責) 玉置小代

【編集】 層富 編集部

上田善次・玉置小代・打田照子・島川恵美子・
藤澤陽子・堀口千秋・松村せつ子・田中純子